

耶穌降生千八百八十四年

北英國聖書會

舊約
聖書

出埃及記

明治十七年

日本橫濱印行

02-KYU

海老澤文庫

出埃及記

出埃及記
イ
イスラエルの子等のエジプトに至りし者の名は左の如
し衆人各々の家族をたづさへてヤコブととも至れりニそあ

はちルベン、シメオン、レビ、ユダ、ミイ、サカル、ゼブルン、ベニヤミン
合七十人コセフのすであエジプトありきハヨセフと出たる者ハ都
兄弟あよび當世の人み死たりセイスラエルの子孫饑く子を
み彌増殖之甚だ去く大強ありて國ハ満るおいたれりハ
ヨセフの事を去らざる難き王エジプトお進りしハ彼等の民ハ
いひけるハ視よ此民イスラエルの子孫われらより多ク且強し
ハ來れわれら機巧く彼等ハ事をあさん恐くハ彼ら多らん又戰
争の起るこある時ハ彼等敵おくみして我等と戰ハ遂ハ國より
いでさらんとすするハち督者をられらの上お立て彼らハ重荷を



おはせて之を苦む彼等バロのためお府庫の邑ビトムエラメセス
 を建たり然るおイスラエルの子孫ハ苦むるハ隨ひて増し殖た
 れバ皆ふれを懼れたりエロプト人イスラエルの子孫を嚴く動
 作かしめ辛き力役をもて彼等を去て苦みて生を度らしむ即ち
 和泥作觀および田圃の諸の工おはたらかしめけるガ其働らしめ
 し工作ハ皆嚴かりきエロプトの王又へブルの産婆フラと名
 くる者どブツと名くる者の二人お諭して去いひけるハ汝等へ
 ルの婦女のためお取生をみす時ハ床の上を見てろの子若男子お
 らむてきを殺せ女子からバ生しおくべしと然る産婆神を興れ
 エロプト王の命せしごとく爲すして男子をも生しおけりエ
 プト王産婆を召て之おいひけるハ汝等みん予此事をみし男子を
 生しおくやまた産婆バロお言けるハへブルの婦ハエロプトの婦の
 ごとくならず彼等ハ健して産婆のるもらお至らぬ前お産をゐる

ありと是およりて神ろの産婆等お恩を得てこしたまへり是お
 おいて民増もきて甚だ強くなりぬ二産婆神を興れたるによりて
 神ろのらのためお家を成たまへり三斯在志クババロの凡の民
 お命じていふ男子の生るあらバ汝等これを悉く河お投いきよ女
 子ハ皆生しおくべし

第二節

一 爰おレピの家の一箇の人往てレピの女を娶りニ女妊
 みて男子を生みろの美きを見て三月のおひだてれを匿せしが
 すでにみれを匿そあたひざるにいたりけきを菫の箱舟を之おた
 めに取て之に瀝青と樹脂を塗り子をろの中に納てこれ河邊の
 華の中に置りろの刻造に立てろの如何にるかを窺ふニ林に
 バロの女身を洗んどて河にくだりろの婢等河の傍におゆむ彼輩
 の中に箱舟あるを見て使女をつらひしてこれを取きたら去め
 んを啓きてろの子のをるを見る嬰兒するハ暗く彼ふれを懐

みていひけるは是のヘブル人の子ありと。時にその姉バラの女
 にいひけるは我ゆきてヘブルの女の中より此子をなんぢのため
 に養ふべき乳母を呼きたらん。バラの女往よと之いひけれ
 ば女子すなわち往てその子の母を呼きたる。バラの女いひ
 ひけるは此子をつきゆきてわむために之を養へ。我らの値をなん
 ぢにせんとせんと婦する。わらうの子を取てこそを養ふ。斯てその
 子の長ずるにおよびて之をバラの女の所にたづさへゆきければ
 すなわちこれが子となる。彼らの名をモーセ(援出)と名けて言ふ。我
 こそを水より援いだせしに因ると。故にモーセ生長におよびて
 一時いでよらの兄弟等の所にいたり。その重荷を負ふを見しが會
 一箇のエロプト人。一箇のイスラエル人。即ちその兄弟を撃
 つを見たき。右左を視まひして人のをらざるを見てそのエロ
 プト人を撃ころし。之を沙の中に埋め置せり。次の日また出て二

人のヘブル人の相争ふを見たき。バラの曲き者にむらひ汝なんぢ
 汝の隣人を撃つやといふに。言彼いひけるは。誰が汝を立てわら
 の君とし。判官としたるや。汝ののエロプト人をころせしごとく。我
 をも殺さんとするや。と是ふおいて。モーセ懼れてその事かならず
 知れたる。ちらんとおもへり。バロ此事を聞て。モーセを殺さんと
 もどめければ。モーセする。わらハラの面をさけて逃げのび。エ
 ンの地。わら彼非の傍。お坐せり。ミデアンの祭司。お七人の女子
 ありしが。彼等來りて。水を汲み。水鉢お盈て。父の羊群。お飲はんとし
 ける。お牧者等きたりて。彼らを逐はらひ。なれば。モーセ起あが
 りて。彼等をたす。たらの羊群。お飲ふ。お彼等らの父。リウエル。お至き
 る時。父言けるは。今日。はあんち。ら何う。く速。わらへりしや。お
 らい。ひける。一箇のエロプト人。我らを。牧羊者等の手より。救いだ
 し。亦。われらのために。水を。多く。汲て。羊群。お飲し。めたり。子。父女等。お

いひけるは彼は何處どこををるや汝等あなた等あんろの人を遣つかてきたりしや彼をよびて物を食ためよと三モ一七この人どよも居ゐることをを好み彼するはちろの女子むすめチホラをモ一セお與あづかふ三彼男子おとこを生うみければモ一セろの名をケルレロム客と名なけて言いふ我異邦わがよその客きやくとありをよむありと三斯いまて時ときをふる程ほどおエロプトの王みかど死しりイヌラエルの子孫こゝろの勞役つとめの故ゆゑおよりて歎なげき號なづふろの勞役つとめの故ゆゑおよりて號なづふところの聲こゑお達たりけきを三神かみろの長なが帥しゅを聞き神かみろのアブラハム、イサク、ヤコブおあしたる契約ちやくぎやくを憶おもひ三神かみイスラエルの子孫こゝろを看みみ神かみ知しりしめたまへり

第二節 モ一セろの妻の父あるモデアルの祭司さいしエテロの罪つみを收とひをり去おとすろの罪つみを曠野あらのの奥おくにみちびきて刑かじの山やまホレブに至いたるおニエホバの使者つかひ神かみの裏うらの火ひ祭まつりの中にて彼かみおわらへる彼かみ見るお練あそ火ひに燃もきともろの練あそ燧たきすモ一セいひけるは我われおきてこの大

ある觀みを見何故なお神かみの燃もたえさるかを見んみロエホバ彼かみきたり觀みんとするを見たまふ即すなはち神かみの中なかよりモ一セよモ一セよと彼かみをよびたまひけれを我われこゝにありといふお神かみいひたまひけるは此こゝお近ちかよるるこゝれ汝かみの足あしより履はきを脱ぬぐべし汝かみお立つ處ところは聖あはきは地ちおれをなり又またいひたまひけるは我われおあんぢの父ちちの神かみアブラハムの神かみイサクの神かみヤコブの神かみありとモ一セ神かみを見ることを畏おそれてろの面おもてを蔽おほせりセエホバ言いたまひけるは我われまことおエロプトにをるわが民たみの苦患くるしみを視みたま彼等かみがろの驅使者つかひの故ゆゑをもて號なづふところの聲こゑを聞き我われおれらの憂うれ患しみを知るありハわれ降くだりてくれらをおエロプト人の手てより救すくひいだし之これを彼地あつちより携たりてきて善よき廣ひろき地ち乳ちと蜜ちとの流ながるよ地ちするはちカナン人ひと、ヘテ人ひと、アモリ人ひと、ベリシ人ひと、ヒビ人ひと、エブス人のをる處ところおいたら去いれんとす今いまイスラエルの子孫こゝろの號なづ呼よむに違ちがはる我われおたまエロプト人ひとお彼ら

苦むるの暴虐を見たり。然バ來れ我ふんちをバロわつうはし
 汝をしてわが民イスラエルの子孫をエロトより導きいださ
 めん。モ一セ神いひけるは我は何か知る者や我豈バロの計
 む往きイスラエルの子孫をエロトより導きいだすべき者あ
 らんや。神いひたまひけるは我うあらず汝どもにあるべし。是は
 巴ガ汝をつかはせる證據あり。汝民をエロトより導きいだした
 る時汝等この山わて神ふ事へん。モ一セ神いひけるは我イス
 ラエルの子孫の所わゆきて汝らの先祖等の神我をふんちら遣
 りしたまふと言ん。彼等もし其名は何と我を言を何とかれらに
 言べきや。神モ一セいひたまひけるは我は有て在る者あり。又
 いひたまひけるは汝うくイスラエルの子孫いふべし。我有とい
 ふ者我をなんぢら遣したまふ。神またモ一セいひたまひ
 けるは汝うくイスラエルの子孫いふべし。ふんちらの先祖等の神

アブラハムの神イサクの神ヤコブの神エホバわれを汝らわつう
 はしたまふ。是は永遠わが名どあり。世々わが詠どあるべし。
 汝往てイスラエルの長老等をあつめて之いふべし。汝らの先
 祖等の神アブラハム、イサク、ヤコブの神エホバ我あられ言
 たまひけらく我誠ふんちらを眷み汝らにエロトわて蒙ると
 みるの事を見たり。我我すあに言り我汝らをエロトの苦患の
 中より導き出してカナン人、ヘテ人、アモリ人、ペリシ人、ヒビ人、エブ
 大人の地すまはち乳と蜜の流るゝ地にのぼり至ら。志めんと。大彼
 等のふんちの言に聽きた。大ふべし。汝とイスラエルの長老等エロト
 一の王の言わいたりて之い言へ。ブル人の神エホバ我らに臨め
 り。然バ請ふわれらをして三日程得と曠野ふ入。去めわれらの神エ
 ホバを犠牲をささぐることを得せ。去めよ。我志るエロトの
 王は假令能力ある手てくばふるも汝等の往をゆるさざるべし。

我すなわちわが手を舒べエジプトの中を諸の奇蹟を行ひてエ
 プトを撃ん其後うれ汝等を去まじべし我エジプト人をしてこ
 の民をめぐまめん汝ら去る時手を空うして去るべからず
 女若ろの隣人どおのれの家を寓る者どお金の飾品、銀の飾品およ
 び衣服を乞べし而して汝らこれを汝らの子女に穿戴せよ汝等
 くエジプト人の物を取べし

第四節

モーセ對へていひけるは然るがら彼等我を信ぜず又わ
 び言ふ聴きたざるすして言んエホバ汝おあらられたまひす
 エホバうれいひたまひけるは汝の手おある者は何あるや彼い
 ふ杖ありエホバいひたまひけるは其を地お擡よどすはち之
 を地おなぐるお蛇とありけれバモーセの前を過たり口エホバ
 モーセいひたまひけるは汝の手をのべて其尾を執れどすは
 ち手をのべて之を執バ手おいりて杖とあるエホバいひたまふ

是は彼らの先祖等の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、エ
 ホバの汝にあらられたることを彼らお信ぜあめんためあり
 ホバまたうれに言たまひけるは汝の手を懐お紐よどすなわち手
 を懐にいれて之を出し見るにろの手癩病を生じて雪のごとく
 せりセエホバまた言たまひけるは汝の手をふたよび懐にいれよ
 ど彼するにちふたよび其手を懐にいれて之を懐より出し見るお
 變りて他處の肌膚のごとくなるエホバいひたまふ彼等もし
 汝を信ぜずまたろの最初の微の聲に聽従ひざるならを後の微の
 聲を信ぜん彼らもし是ふた切の微をも信ぜずして汝の言に聽
 従はざるなら汝河の水をとりて之を陸地おろよ汝河より
 取たる水陸地にて血となるべしエホバいひたまひける
 りわが主よ我は素言辭に敏き人にあらず汝が僕に語りたまへ
 るに及びても猶おあり我の口重く舌重き者なりエホバおれお

いひたまひける人の口を造る者は誰なるや。睡者、醒者、目明者、聾者などを造る者は誰なるや。我ニホバあるふあらずや。自然バ往けよ。我なんぢの口ありて汝の言ふべきことを教へん。モーセいひけるに、わが主よ、願くは遣すべき者をつらはしたまへ。是にいてエホバモーセに、怒を發して、いひたまひけるに、レヒ人アロンは汝の兄弟あるふあらずや。我かき言を善するを知る。また彼あんぢを遇んとていで來る。彼汝を見る時、心お喜ばん。汝うれふ語りて言をうの口お授くべし。我なんぢの口お彼の口ありて、汝らの爲べき事を教へん。彼なんぢを代て、民お語らん。彼の汝の口に代らん。汝の彼のためお神お代るべし。若るんぢの杖を手に執り、之をもて奇蹟をおこなふべし。是においてモーセ、ゆきてダエロプトにある兄弟等の所に行へら。去め、彼等のあつ生あるら

へをるや。吾を見さしめよ。エテロモーセに、安然に往くべし。といふ。爰おエホバエアアンにてモーセにいひたまひけるに、往てエロプトに、うへれ。汝の生命をもどめし人の皆死たり。モーセすなり。ちろは妻と子等をどり、之を驢馬に乗てエロプトの地にかへる。モーセは神の杖を手に執り、エホバモーセにいひたまひけるは、汝エロプトにあへり、ゆける時、いりならず。我おなんぢの手に授けたると、あろの奇蹟を悉く、バロのまへにおみなふべし。但し、我かれの心を剛復おすれば、彼民を去まめざるべし。汝バロに言べし。エホバかく言ふ。イスラエルはわが子わが家子あり。我なんぢにいふ。我の子を去ら、去めて我に事ふることをせしめよ。汝もし彼をさら、去むることを拒バ、我なんぢの子、なんぢの家子を殺すべし。と言モーセ、途にある時、エホバかれの宿所にて、彼に遇て、ころさんと。去たまひければ、三チ、ボラ、利き石をとりて、その男子の鬘の皮を割

りモーセの足下にゐるげうちて言ふ汝のまことわがために血
 の夫ありと云是に於いてエホバ、モーセをゆるしたまふ此時テッポ
 フの血の夫といひしハ割禮の故によりてなり爰にエホバ、ア
 ンにいひたまひけるハ曠野にゆきてモーセを迎へよと彼すなり
 ちゆきて神の山にてモーセに遇ひ之に接吻す云モーセエホバダ
 ちこれに言ふくめて遣したまへる言は言とエホバのおのれに命
 じたまひし諸れ奇跡とをアロンにつげたり云斯てモーセとアロ
 ン往てイスラエルの子孫の長老を盡く集む事而してアロンエホ
 バにモーセにかたりたまひし言を盡くつ々又彼民口のまへに
 て奇蹟をなしけれ心を民するハ信す彼等エホバにイスラエルの
 の民をうへりミろれ苦患をおもひたまふを聞て身をうらめて拜
 をるせり

第二節 一 ち後モーセとアロン入てバロにいふイスラエルは神

エホバ斯いひたまふ我民を去まめ彼等を去て曠野に於て我を祭
 ることを文せまめよとニバロいひけるハエホバハ誰るれを去
 ろの聲に去たごひてイスラエルを去まむべき我エホバを識す亦
 イストラエルを去まめしニ彼ら言けるハペル人は神我らに顯さ
 たまへり請ふ我等を去て三日程ほど曠野にいりてわれらに神エ
 ホバに犧牲をささぐることを文せまめよ恐くはエホバ疫病ヲ又
 ハ刀兵をもて我らをなやましたまらんニモシプト王かれらに言
 けるハ汝等モーセ、アロンあんぢ民の操作を妨ぐるや往てあんぢ
 られ荷を負へニバロまたいふ士民今は多あり然るに汝等おれら
 をして荷をおふみどを止まめんとすハバロ此日民を驅使ふ者等
 および民の有司等に命じていふセ汝等再び前のごとく民に磚瓦
 を造る采得を與ふべからず彼等をして往てミづら采得をあつ
 めしめよハまた彼等夕前に遣りし磚瓦は敷れごどくに仍るれら

に之をつくらしめよ其を滅するられ彼等の懶惰故に我等を去
 て往てわれらに神に犠牲をさよげまめよと呼り言ふあり人
 人の工作を重くして之に勞らしめよ然之偽言を聽ふとあらじ
 とい民を驅使ふ者等よびろの有司等出ゆきて民にいひける
 パロの言たまふ我らに禾稈をあたへじ汝等往て禾稈
 のある處にて之をどれ但し我らに工作は分毫も減さるべ
 しとま是に於いて民逼くエジプトの地に散て草藁をあつめて禾
 稈とみす驅使者らを促たてよ言ふ禾稈のありし時のごと
 く汝らに工作汝らに日々は業をなしをふべしと吉パロの驅使者
 等がイスラエルの子孫の上に立たるところは汝らに業を前のおどく
 ら何ぞ昨日も今日も磚瓦を作るごみろの汝らに業を前のおどく
 に爲しをへさるやと言ふま是に於てイスラエルの子孫の有司等
 來りてパロに呼はりて言ふ汝らに斯等にもすやま僕等に禾

稈を與へずして是らに磚瓦を作れといふ賦よ僕等は建る是な
 んぞの民の過ありと然るにパロいふ汝等は懶惰し懶惰し故に
 汝らに我らを去て往てエホバに犠牲をさよげまめよと言ふあり
 夫然を汝ら往て操作けよ禾稈はみんちらに與ふることあるべ
 けききなんちら尙獻のごとくに磚瓦を交納むべしとまイスラエ
 ルの子孫の有司等汝等うの日々につくる磚瓦を減すべからずと
 言るを聞て災害の身にまよふを知り彼らパロを去るまで出た
 る時モーセとアロンとの對面にてるを見たとき三之にいひける
 り願くはエホバ汝等を撃みて踏きたまへ汝等はわきらの鼻をバ
 ロの目と彼の僕の目に忌嫌のまめ刀を彼等の手にわたして我
 等を殺さまめんとするありと三モーセ、エホバに返りて言ふわが
 主よ何て此民をあしくしたまふや何のために我をつかりしたま
 ひしや三わがパロの許に來りて汝の名をもて語りしよりして彼

この民をわしくす汝また絶てんちの民をすくひたまひさるる
 神の言にエホバ、モーセに言たまひけるは今汝わが民に爲さんと
 ゐるの事を見るべし能ある手の加はるによりてバロ彼らをさら
 しめん能ある手の加はるによりてバロ彼らを其國より還いだすべ
 しニ神モーセに語りて之をいひたまひけるは我はエホバなり
 我全能の神といひてアブラハム、イサク、ヤコブに誓れたり然ど我
 名のエホバの事は彼等しらざりき我また彼らとわが契約を立
 て彼等が族して寄居たる國カナン地のをうれらに與ふニ我また
 エロフト人が奴隸とあせるイスラエルの子孫の呻吟を聞き且我
 が契約を憶ひ出づ故にイスラエルの子孫に言へ我はエホバ
 り我汝らをエロフト人の重負の下より擲出し其使役をまぬうれ
 しめ又腕をのべ大ある罰を得とみして汝等を贖はんセ我汝等を

取て吾民とみし汝等の神とあるべし汝等はわがエロフト人の重
 擔の下より汝らを擲出したるるんちらの神エホバあるふとを知
 ん我わが手をあげてアブラハム、イサク、ヤコブと與へんぞ誓ひ
 し地に汝等を導きいたり之を汝等と與へて產業となさしめん我
 はエホバなりエホーセウくイスラエルの子孫を語りけれども彼等
 は心の憐るど彼事の苦きとの爲もモーセに聴きりきエホバモ
 申も告げていひたまひけるはさしてエロフトの王バロを語りイ
 ヌラエルの子孫をその國より去れよモーセエホバの前申
 していふイスラエルの子孫既も我を聽す我は口を割禮をうけき
 る者あれをバロいふで我あきらんやエホバモーセとアロン
 語り彼等も命じてイスラエルの子孫とエロフトの王バロの所
 往止めイスラエルの子孫をエロフトの地より導きいださめた
 まふ言われらの父の家々の長は左のごとしイスラエルの家子ル

ベンの子ヘノク、バル、ヘツロン、カルミ是等はルベンの家族ありま
 シメオンの子エムエル、ヤエン、オハデ、ヤキン、ゾハル、およびカナ
 ンの女の生シヤウル是らはシメオンの家族なりまレビの子の
 名はろの世代にまたおひて言を左のみどしゲルシオン、コハテ、メ
 ラリ是ありレビの齢の年は百三十七年なりきモゲルシオンの子
 はろの家族にまたおひて言をリブニおよびシメイありマコハテ
 の子はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウツエルなりコハテの齢の年
 は百三十三年ありきまメラリの子はマヘリおよびムレあり是等
 はレビの家族にまたろの世代にまたおひて言る者ありマムラ
 ムろの伯母ヨケベアを妻おめどれり彼アロンとモーセを生ひア
 ムラムの齢の年は百三十七年ありき三イツハルの子はコラ、チベ
 グ、シクリあり三ウツエルの子はシサエル、エルザバン、シテリあり
 三アロン、ナシコンの姉アヒナダブの女エリセバを妻おめどれり

彼ナダブ、アピウ、エレアザル、イタマルを生ひ自コラの子はアツレ
 ル、エルカナ、アヒアサフ、是等はコラ人の族あり三アロンの子コレ
 アザル、アテエルの女の中より妻をめぐれり彼ビチハスを生ひ是
 等はレビ人の父の家々の長にしてろの家族に宿ひて言る者あり
 三エホバダイスラエルの子孫を其軍隊にまたおひてエロプトの
 地より遊きいだせよといひたまひしは此アロンとモーセありモ
 彼等はイスラエルの子孫をエロプトより遊きいださんとしてエ
 ロプトの王パロお語りし者にして即ち此モーセとアロンあり
 エホバエロプトの地にてモーセに語りたまへる日あるエホバモ
 ーセお語りて言たまひけるは我はエホバあり汝わが汝にいふ所
 を悉皆くエロプトの王パロに語るべし三モーセエホバの前お言
 けるは我は口お朝禮を受さる者あるをパロいりて我お聴んや
 一エホバモーセお言たまひけるは祝よ我汝を去てパロお

おけるふと神のおどくあらまむ汝の兄弟アロンは汝の預言者ど
 なるべし汝はわが汝を命ずる所を盡く宣べし汝の兄弟アロン
 はバロに告ることを爲べし彼イスラエルの子孫をろの國より出
 すお至らん我バロの心を剛愎おして吾敵と奇跡をエロトの
 國お多くせん口然どバロ汝を聽ざるべし我すなりち吾手をエ
 プトお加へ大なる罰を得せしめて吾軍隊わが民イスラエルの子
 孫をエロプトの國より出さん我わが手をエロプトの上お伸て
 イスラエルの子孫をエロプト人の中より出す時おは彼等我的エ
 ホバあるを知らんエホバエホバの命じたま
 へる如くお然多しぬセろのバロと談論ける時エホバは八十歳ア
 ロンは八十三歳ありきエホバエホバに告て言たまひ
 けるはエホバ汝等お語りて汝ら自ら奇蹟を行へと言時には汝ア
 ロンお言べし汝の杖をとりてバロの前に擲てよど其は蛇とみら

ん十はお於てモーセとアロンはバロの許おいたりエホバの命じ
 たまひしごとくお行へり即ちアロンろの杖をバロとろの臣下の
 前お擲まお蛇とみりぬ士斯在まかババロもまた博士と魔術士を
 召よせたるおエロプトの法術士等もろの秘術をもてかくおみお
 へり即ち彼ら各人ろの杖を扱たれば蛇となりけるおアロンの
 杖かれらの杖を呑つくせりま然るおバロの心剛愎おありて彼ら
 に聽みどをせざりきエホバの言たまひま如し言エホバモーセお
 言たまひけるはバロは心頑おして民を去まむるふとを拒ひあり
 ま朝おおよびて汝バロの許おいたれ視よ彼は水お臨む汝河の邊
 おたちて彼を逆ふべし汝ろの蛇お化し杖を手おどりて居りま彼
 お言ふべしへブル人の神エホバ我を汝おつりはして言まむ吾民
 を去まめて曠野おて我お事ふるふとを得せまめよ視よ今まで汝
 は聽入ざりまあるまエホバらく言ふ汝ふれによりて我おエホバ

あるを知らん視よ我わが手の杖をもて河の水を撃ん是血お變すべし夫而して河の魚は死す河は臭くらんエロフット人は河の水を飲ふどを厭ふおいたるべしエホバまたモーセに言たまはく汝アロンを言へ汝の杖をとりて汝の手をエロフットの上お伸べ流水の上河々の上池塘の上一切の湖水の上お伸て血どあらめよエロフット全國に於て木石の器の中お凡て血あるおいたらんエホバモーセアロンすなはちエホバの命じたまへるごとくお爲り即ち彼バロドロの臣下の前お杖をわけて河の水を撃去に河の水みな血お變じたり三是おおいて河の魚死て河臭くらりエロフット人河の水を飲こぞを得ざりき斯エロフット全國お血ありき三エロフットの法衛士等もろの穢衛をもて斯のごどく行へりバロは心頑固おし彼等お聽ふどをせざりきエホバの言たまひし如し三バロすなわち身をめぐらしてろの家お入り此事おも心をどめざりき言エ

ロフット人河の水を飲ふどを得ざりきろ心皆飲水を得んとて河のまわりを堀たりエホバ河を撃たまひてより後七日たちぬ

一エホバモーセに言たまひけるハ汝バロお詣りて彼お言へエホバかく言たまふ吾民を去おめて我お事ふることを得せおめよエ汝もし去おひるふどを拒お心我蛙をもて汝の四方の境を圍さんエ河に蛙むらむり上りきたりて汝の家おいり汝の寢室にいたり汝の牀にのぼり汝の搔鉢おいらん蛙あんぢの身おればり汝の民の窟おふよび汝の搔鉢おいらん蛙あんぢの身おればり汝の民と汝の臣下の上におぼるべしエホバモーセに言たまはく汝アロンに言へ汝杖をとりて手を流水の上にお伸べ河々上と池塘の上お伸て蛙をエロフットの地に上らめよエアロン手をエロフットの水のうへお伸たさ心蛙のぼりきたりてエロフットの地を蔽ふセ法衛士等もろ穢衛をもて斯おておひ蛙をエロフットの地に上ら

志めたりハバロモーセとアロンを召て言けるはエホバお願ひて
 この蛙を我どわが民の所より取さらしめよ我この民を去去めて
 エホバお儀牲をさよぐることを得せしめんエホバお言け
 るハ我あんぢと汝の臣下と汝民のためお願ひて何時此蛙を汝
 と汝の家より絶さりて河にのミ止らしむべきや我に示せと
 明日といひけれモ言ふ汝の言のごとくお爲し汝をして我
 らの神エホバのごとき者あきことを知まめん蛙汝と汝の家を
 離さ汝の臣下と汝の民を離きて河にのミ止るべしとエホバ
 アロンするハバロを離きて出でモーセのバロお至らまめた
 まひし蛙のためおエホバお呼りて去にエホバモーセの言のご
 とくおしたまひて蛙家より村より田野より死亡たり言被おこれ
 を撰むるお山をあじ地臭くありぬま然るにバロは感氣時あるを
 見てろの心を頑固おして彼等お聴ことをせざりきエホバの言た

まひし如し去エホバモーセお言たまひけるハ汝アロンお言へ汝
 の杖を伸べ地の塵を打てエホバお蚤とあらまめよと彼
 等斯るせり即ちアロン杖をとりて手を伸べ地の塵を擧げるハ蚤と
 とありて人ど畜あつけりエホバお全國おあいて地の塵みる蚤と
 ありぬ法術士等ろの秘術をもて斯おみなひて蚤を出さんとま
 たりお能えざりき蚤ハ人ど畜あつて是おあいて法術士等ハ
 ロお言ふ是ハ神の指ありと然るハバロハ心剛愎にして彼等お聴
 ざりきエホバの言たまひし如しエホバモーセお言たまはく汝
 朝早く起てバロの前に立て祝よ彼ハ水に臨む汝彼お言へエホバ
 かく言たまふは民を去去めて我お事ふることを得せまめよ
 汝もしわが民を去去めずバ祝よ我汝と汝の臣下と汝の民と汝の
 家とお婿をおくらんエホバお人の家々ハ婿充べし彼らの居る
 とふるの地も然らん三日の日お我わが民の居るゴセンの地を區

別おきて其處に納めらるゝは地の中にありて我のエホバある
 ことを汝が知んためあり我わが民の汝の民の間に區別をたて
 ん、明日の徴あるべし言エホバかく爲たまひたれば納めびた
 しく出来りてバロの家にいりろの臣下の家にいりエロプト全國
 あいたり納めのために地害するは是においてバロ、モーセとアロン
 を召ていひたるは汝等往て國の中に於て汝らの神に犠牲を献げよ
 言モーセ言ふ然するの宜からず我等のエロプト人の崇拜む者を
 犠牲として且さらの神エホバに献ぐべけざばなり我等もしエロ
 プト人の崇拜む者をろけ目の前にて犠牲に献げらば彼等石にて
 我等を撃ざらんや我等の三日路はと曠野にいりて我らの神エ
 ホバに犠牲を献げろの命したまひしごとくせんとす言バロ言り
 るは我汝らを去あめて汝らの神エホバに曠野にて犠牲を献ぐる
 んどを得せしめん但餘お遺くは行へくらす我ためお祈れよ言モ

一七言けるは視よ我汝をこゑきて出づ我エホバお祈ん明日納め
 べきの臣下の民を離せん第バロ再び偽をおこさるひ民を去
 めてエホバお犠牲をささぐるを得せしめざるが如きふとを爲
 されまかくてモーセ、バロをはあきて出でエホバお祈りたまは
 エホバ、モーセの言のごとく爲したまへり即ちろの納めバロとろ
 の臣下どろの民よりはあきあめたまふ一ものあらきりき然る
 ちバロ此時にもまたろの心を頑固おして民を去あめきりき
 一八 爰おエホバモーセにいひたまひけるはバロの所にいり
 てうきに告よへブル人の神エホバ、斯いひたまふ吾民を去あめて
 我わつかふることをえせまめよ汝もし彼等をさらあむるふと
 を拒めて尙あさらを拘留へなむエホバの手野にをる汝の家畜
 馬、驢、馬、駝、牛、および羊あ加はらん即ち甚だ悪き疾あるべしロエ
 ホバイスラエルの家畜とエロプトの家畜とを別ちたまはんイス

ラエルの子孫に属する者は死る者あらざるべしとエホバはまた
 期をさだめて言たまふ明日エホバの事を國あふさんど明日
 エホバの事をあしたまひりきバエロプトの家畜も死り然と
 イスラエルの子孫の家畜はも死ざりきセバロ人をつかはして
 見させめたるにイスラエルの家畜の一頭だも死ざりき然ども
 パロの心剛愎にして民をさらめざりきまたエホバモーセと
 アハンの心剛愎にして民をさらめざりき汝等竈爐の灰を一握とせ而してモー
 セバロの目の前へて天をひりひて之をまきちらすべし其灰を
 エロプト全國に塵となりてエロプト全國の人と畜獸おつき職をも
 ちて脹るゝ腫物となりんと彼等するをち竈爐の灰をとりてパ
 ロの前に立ちモーセ天にむひて之をまきちらしけむ人を
 畜につき膿をもちて脹るゝ腫物とされり士法衛士等はろれ腫物
 れためにモーセは前に立つみとを得ざりき腫物は法衛士等より

去て諸のエロプト人にまで生じたり然きエホバは心
 懐にしたまひたき彼らお聴ざりきエホバのモーセお言給ひし
 如しき愛おエホバモーセおひたまひける朝早くおきてパロ
 の前にたちて彼お言へパロ人の神エホバ斯いひたまふ吾民を
 去まめて我に事ふるをえせまめよ我此度わが諸の災害を汝に
 心とるんちの臣下およびあんちの民お降し全地お我ことき者
 きみとを汝お知ためん我もしわが手を伸べ疫病をもて汝と
 んち汝を撃たらば汝の地より絶きしからん抑わが汝をたて
 たるの即ちあんちを去てわが權能を見させめわが名を全地お傳
 べんためありも汝お得吾民の前お立ふさおりて之をさらめき
 るやま祝よ明日の今頃我はなはだ大なる雷を降すべし是の
 エロプトの國より今までお嘗てあらざりし者なり然と人をやり
 て汝の家畜および凡て汝の野お有る物を集めよ人も獸畜も凡て

野ありて家歸らざる者ハ雷の上ホふりくたりて死るハ
 たらんニハロの臣下の中エホバの言を興る者ハ其の僕と家畜を
 家畜を野お置りニエホバモーセハいひたまひけるハ汝の手を天
 ち舒てエロプト全國お電おらあめエロプトの國中の人と獸畜と
 田圃の諸の蔬おふりくだらあめよモモーセ天おひかひて杖を
 舒たきバエホバ雷と電を遣りたまふ又火いで地お馳すエホバ
 電をエロプトの地お降せたまふ言期電ふり又火のかた未だ斯
 降る甚だ厲しエロプト全國お其國を成てよりおののかた未だ斯
 る者おらざりしあり電エロプト全國お於て人と獸畜とをい
 ず凡て田圃おをる者を撃り電また田圃の諸の蔬を撃ち野の諸の
 樹を折り唯一ヌラエルの子孫のをるヤセンの地お電おらさ
 りき言はお放てハロ人をつかえてモモーセアロンを召てふき

ふ言たるは我此度罪ををかしたりエホバハ箴く我とわが民ハ惡
 しエホバハ願ひておの刺鳴と電を最早ふれにて足おめよ我な
 んぢら去おめん汝等今は留るおよばす元モモーセかきおひ
 けるハ我邑より出て我手をエホバに舒ひろげん然バ雷おと電
 かさねてあらざるべし斯して地はエホバの所屬るを故にあら
 ぬめん然と我ある汝おん方の臣下等ハあはエホバ刺を畏お
 ざるあらんと倍麻と大麥は撃きたり大麥ハ穂いで麻ハ花さき
 ろたきバあり然と小麥と稗麥ハ未だ長きり去によりて撃さき
 りきモモーセハ口をはきて邑より出てエホバにひりひて手を
 のべひろげたきを雷と電やみて兩地にふちすありぬ然るにハ
 雨と電と雷鳴のやみたるを見て復も罪を犯し其心を剛硬にす
 彼もろの臣下も然り即ちハロハ心剛硬に去てイスラエルの子
 孫を去おめざりきエホバのモーセによりて言たまひしおとし

我かれの心どろの臣下の心を剛硬にせり是れわら此等の傲を彼
 等の中に示さんためニ又あんちをして吾ガエホバトにて行ひま
 事等するのち吾ガエホバトの中にてあしたる傲をあんちの子と
 なんちの子の子の耳に語りあめんためあり斯して汝等わガエホ
 バなるを知べしニモーセとアロン、バロの所あいて彼あひひけ
 るはへブル人の神エホバかく言たまふ何時まで汝に我に降るあ
 どを拒ひや我民をさらあめて我あ事ふることとを文せまめよ汝
 もしわガ民を去まひることを拒まば明日我蛇をあんちの境わ入
 めめんニ蛇地の面を蔽て人地を見るわたのさるべし蛇ウの死か
 れてあんちに遺れる者すなはち雲に打のこされたるべし蛇ウの食ひ野
 ふ汝らのためお生る諸の樹をくらはんニ又あんちの家とあんち
 の臣下は家々および凡れエホバト人れ家に満べし是はあんちれ

父とあんちの父の父が世にいでしより今日にいたるまで未だ嘗
 て見ざるもれありと斯て彼身をめぐらしてバロは所よりいでた
 り七時にバロの臣下バロあひひける何時まで此人われらの網
 どあるや人々をさらあめてうれ神エホバあ事ふることを文せま
 めよ汝はエホバトは滅ぶるを知るやと是をもてモーセと
 アロンふたぎひ召きてバロの爵にいたるにバロれらにいふ往
 てあんちちられ神エホバあ事へよ但し往く者の誰と誰なるや
 一せいひけるは我等の幼者をも老者をも子息をも息女をも擧へ
 て往き羊をも牛をもたづさへて往くべし其の我らエホバの祭禮
 をなさんどすま心なりニバロかきらにいひける我汝等どあん
 ちらの子等を去まむる時にエホバあんちらと偕に在る慎めよ悪き
 事あんちらの面たまへにありさうは宜からず汝ら男子のミ往て
 エホバに事よ是あんちらる求むるところなりと彼等つひにバロ

の前より逐いださるま爰にエホバ、モーセにいひたまひける、汝
 の手をエホバトの地けうへに舒て蝗をエホバトに國にのすませ
 て彼れ雷ガ打殘したる地の諸の藁を悉く食ふまは、モーセすな
 りちエホバトの地の上にるの杖をのべけれバエホバ東風をふこ
 してろの一日一夜地にふりまめたまひしガ東風朝におよびて蝗
 を吹きたりて古蝗エホバト全國のすみエホバトの四方の境に
 居て害をなすこと太甚し是より先に、斯のごとき蝗なりし是
 より後にもあらざるべし、蝗全國の上を蔽ひけきバ國暗くあり
 ぬ而して蝗地の諸の藁および雷の打殘せし樹の葉を食ひたれば
 エホバト全國お於て樹も田圃は藁も青き者どていのこらさ
 りき、是をもてバロ急ぎモーセとアロンを召て言ふ我あんち
 の神エホバと汝等どにむかひて罪ををかせり、然バ請ふ今一次
 のみ吾罪を宥めてなんぢらに神エホバを願ひ、唯此死を我より取

はるさ、まめよと汝す、あ、ち、バロの所より出てエホバにねがひ
 けよ、バエホバはあはだ強き西風を吹めぐらせて蝗を吹はらし
 め之を紅海に驅いれたまひてエホバトは四方に境を蝗ひどつも
 遣らざる、あいたどり、然きどもエホバ、バロに心を剛愎にまたま
 ひたき、エホバトの子孫をさらまめさりき、エホバ、またモー
 セにいひたまひける、天むかひて汝の手を舒べエホバトの國
 を黒暗を起すべし、其黒暗は摸るべきありと、三、モーセする、ち、天
 にむかひて手を舒けきを、稠密黒暗三日のわひだ、エホバト全國お
 ありて、三日は間の人々たがひお相見る、わた、す、又、あ、の、處
 より起ものる、ち、然とエホバトの子孫の居處おは、皆、光、あり
 き、是、お、於て、バロ、モーセを呼ていひける、汝等のきてエホバに
 事、は、唯、あん、ぢ、ら、の、羊、と、牛、を、留、め、あ、く、べ、し、汝、ら、の、子、女、も、亦、なん、ぢ
 ら、ど、ど、も、に、往、べ、し、モーセいひける、汝また我等の神エホバに

献ぐべき犠牲と燔祭は物をも我等に與ふべきなり。わきらけ家畜もわきらどどもお往べし。一踏も後おれみすべら。す其の我等ろれ中を取てわきらの神エホバに事ふべき。故ありまたわきら彼處にいたるまで何をもてエホバに事ふべきか。知さきとをありと。自然とともエホバハロの心を剛復にしたまひた。是ハロの色ちをさらまむることを背ぜざりき。云すな。ちハロモ一セお言ふ我をはあきて去よ。自ら慎め重てわが面を見るあるは。汝わが面を見る日おり死べし。モ一セいひけるは。汝の言ふと。みろ。の善し我重て復あんちの面を見ざるべし。

第二十一節 エホバモ一セおいひたまひけるは。我今一箇の災をハロにおよびエロプトお降さん。然るは汝等を此處より去まむべし。彼あんちらを全く去まむるに。必ず汝らを此より逐はらん。然るは汝民の耳に。おたり男女をして。おのくろの隣々に。銀は飾品。金を

の飾具を乞あめよ。とエホバつひに民をしてエロプト人の恩を蒙ら。あめたまふ。又ろの人モ一セハロの國にてハロは臣下の目と民の目に。甚だ大ある者と見えたり。モ一セいひけるは。エホバの國の中の長子たる者。ハロの長子より磨の後にをる。姉は長子とて。悉く死べし。又獸畜の首出も。ああり。而してエロプト全國お大なる號哭あるべし。是は。是のおとき事。のあらず。また再び斯る。みと有ざるべし。モ然とイスラエルの子孫おむらひて。ハロもろれ舌をうお。さじ人おむらひても。獸畜にむらひても。然り汝等。みとによりてエホバハロエロプト人。とイスラエルのあひだに區別をなしたまふ。を知べし。汝の此臣等。みなわが許に下り。来てわきを拜し。汝あんち。に従ぐ。よ。民みな出よ。と言ん。然る後。わき出べし。と烈しく怒りてハロの所より出たり。とエホバモ一セ

ふいひたせひけるは、**パロ**に勝るべし。是をもて吾がエホバトの國に奇蹟をおみあふみど増べし。ヤホーセとアロンの諸れ奇蹟をことしく、**パロ**の前に行ひたきども、エホバ**パロ**の心を剛愎にたたまひけきと彼**イスラエル**れ子孫をろけ國より去まめきり

エホバエホバトの國おてモーセとアロンに告ていひたまひけるは、此月を汝らの月の首とせ。汝らは是を年の正月となすべし。汝等**イスラエル**の全會衆お告て言べし。此月の十日、家の父たる者おの、**羔羊**を取べし。即ち家おどお一箇の**羔羊**を取べし。ロもし家族少くして其**羔羊**を盡すとあたりずを、その家の鄰ある人どもも、お人の數あまたがひて之を取べし。各人の食ふ所おあたがひて、汝等**羔羊**を飼るべし。汝らの**羔羊**は疵なき當歳の壯なるべし。汝等**綿羊**あるひは、山羊の中よりふれを取べし。而し

て此月の十四日まで之を守りおき、**イスラエル**の會衆みる、**薄暮**は之を屠り、その血をとりて其之を食ふ。家の門口の兩旁の椽と鴨居お塗べし。而して此夜の肉を火お炙て食ひ、又清いれぬパンお苦菜をろへて食ふべし。其を生おても、水お煮ても、食ふありれ火お炙べし。其頭と脛と臍とを皆くらへず。其を明朝まで殘しおく。あるれ其明朝まで殘れる者は、火おて焼つくすべし。さあんちち斯之を食ふべし。即ち腰をひきうらげ、足お鞋を穿き、手お杖をとりて、急て之を食ふべし。是**エホバ**の逾越節あり。是夜われ**エホバ**の國を巡りて、人と畜とを論ず。**エホバ**トの國の中の長子たる者を盡く擊殺し、又**エホバ**トの諸の神お罰をうむらせん。我は**エホバ**あり。その血あんちちが居るところの家おありて、汝等のためお記號とあらん。我血を見る時あんちちを逾越すべし。又わが**エホバ**トの國を撃つ時、災あんちちお降りて滅ばすふとなりるべし。昔汝

ら是日を記念えてエホバの節期とあし世々これを祝ふべし汝等
 之を常例とあして祝ふべし第七日の間酔いれぬパンを食ふべし
 ろの首の日ハパンを食ふ汝らの家より除け凡て首の日より七日ま
 でお酔入たるパンを食ふ人はイスラエルより絶るべきあり且
 首の日ハ聖會をひらくべし又第七日ハ聖會を汝らの中ハ開け是
 ふたつの日は何の業をもあすべからず只各人の食ふ者のみ汝等
 作るみどを得べし汝ら酔いれぬパンの節期を守るべし其は此
 日ハ我あんぢらの軍隊をエジプトの國より導きいだせり故
 ハ汝ら常例とあして世々是日をまゐるべし正月に於て月の
 の十四日の晩より同月の二十一日の晩まで汝ら酔いれぬパンを
 食へ七日の間あんぢらの家ハパンを食ふべし其は此
 たる物を食ふ人は其異邦人たると本國ハ生れし者たるとを問はず
 皆イスラエルの聖會より絶るべし汝ら酔いれたる者は何を

食ふべからず凡て汝らの居處に於ては酔いれぬパンを食ふべし
 三是ハ於てモーセ、イスラエルの長老を盡くまねきて之ハいふ汝
 等らの家族ハ循ひて一頭の羔羊を拾み取り之を屠りて逾越節の
 ためハ備へよ三又牛膝草一束を取て孟の血ハ濡し孟の血を門口
 の鴨居および二旁の柱ハうるよくべし明朝ハいたるまで汝等一人
 も家の戸をいつるあつれ三其ハエホバエジプトを撃つ巡りたま
 ふ時鴨居と兩旁の柱ハ血のあるを見をエホバ其門を逾越し殺滅
 者を去て汝等の家ハ入て撃きらあめたまふべけれあり汝らは是
 事を例とあして汝らあんぢの子孫永くこれを守るべし汝等エ
 ホバの言たまひしみどくあらんぢらハ與へたまひんとあろ
 の地ハ至る時は其の禮式をまゐるべし若あんぢらの子女この
 禮式は何の意あるやと汝らハ問はば汝ら言ふべし是ハエホバの
 逾越節の祭祀ありエホバエジプト人を撃たまひし時エジプトに

をるイスラエルの子孫の家を逾越てわきらの家を救ひたまへり
 と民するはち鞠て拜せり。イスラエルの子孫去てエホバのモー
 セとアロンに命じたまひしおどくみし斯おみまへり。愛おエホ
 バ夜半おエロプトの國の中の長子たる者を位お坐する。バロの長
 子より半獄ある俘虜の長子まで盡く殲たまふ。亦家畜の首生も
 まかり。羊斯有まろを。バロどの諸の臣下およびエロプト人みる
 夜の中お起あがり。エロプトに大ある號哭ありき。死人あらざる家
 ありりけれバあり。ミバロする。あち夜の中おモーセとアロンを召
 ていひけるは。汝らどイスラエルの子孫起てわが民の中より出さ
 り。汝らがいへる如くお往てエホバに事へよ。亦みんちら言る
 おどく。汝らの羊と牛をひきて去れ。汝らまた我を祝せよ。是はお
 いて。エロプト人我等みる。死ると言て。民を催逼て速くに國を去ま
 めんどせし。を言民捏粉の未だ酔いれざるを執り。捏盤を衣服に

包みて肩お負ふ。而してイスラエルの子孫モーセの言のおどく
 爲し。エロプト人お銀の飾物、金の飾物および衣服を乞たる。お
 ホバエロプト人を去て。民をめぐまめ。彼等おみれを與へ。めめた
 せふ。斯うれら。エロプト人の物を取り。毛斯て。イスラエルの子孫ラ
 マセスより。エコレお進み。まが子女の外に。徒にて歩める。男六十萬
 人ありき。又衆多の寄集人および。羊牛等は。あはだ多の家畜。彼等
 どどもに上れり。愛お彼等。エロプトより携へいでたる。捏粉をも
 て。酔いれぬ。パンを炙り。未だ酔をいききり。けれを。あり。是うれら。エ
 ロプトより。遠いだされ。て。溜滯を得さ。め。まに。由り。又何の。嚴糧を
 も。備へ。さ。り。志。お。因。る。早。倍。イスラエルの子孫の。エロプトお。住居し
 ろの。住居の。間。は。四。百。三。十。年。あ。り。き。四。百。三。十。年。の。終。お。いた。り。即
 ち。其。日。お。エ。ホ。バ。の。軍。隊。み。る。エ。ロ。プ。ト。の。國。よ。り。導。き。い。だ。ま。た。ま。ひ。し。事。の。た。め。お。エ
 ハ。び。彼。等。を。エ。ロ。プ。ト。の。國。よ。り。導。き。い。だ。ま。た。ま。ひ。し。事。の。た。め。お。エ

ホバの前まへ守るべき夜よあり是こゝはエホバの夜よにしてイスラエルの
 子孫こゝろ皆世々みなまもるべき者ものありなりエホバ、モーセとアロンアロンに言いた
 まひけるは、逾越節こしの例たとは是こゝのおとし、異邦人よこしまはみそを食ふべから
 ず、但し各人の金かねにて買かつたる僕こゝろは、割禮せきれいを施おこなはして然る後のち是を食たべ
 ひべし、は外國あまの客きやくおよび傭人やうじんは之を食ふべからず、異一ひとの家いへにて
 みそを食ふべし、ろの肉にくを少すくも家の外ぐわいに持もつるあはれ、又其骨ほねを
 折こべからず、はイスラエルの會衆くわいしゆみろ之を守るべし、異邦人よこしまあ
 んぢどもに寄居よこてエホバの逾越節こしを守らんとせ、其男おとこ悪く割禮せきれい
 を受うて然る後のち近ちかりて守るべし、即ち彼は國くにに生なきたる者もののこと
 くあるべし、割禮せきれいをうけざる人はみそを食ふべからざるあり、は國
 に生なきたる者ものにもまた汝らの中に寄居よこる異邦人よこしまにも、此法このりつは同一ひとし
 あり、はイスラエルの子孫こゝろみろ斯かあみろあひエホバのモーセとア
 ロンアロンに命めいじたまひしおとく爲なたり、はろの同どうセ日ひハエホバ、イスラエ
 ルの子孫こゝろをろの軍隊いくさにまたらひてエロブトの國くにより導なきいだし

たまへり
 ルの子孫こゝろをろの軍隊いくさにまたらひてエロブトの國くにより導なきいだし

愛あいにエホバ、モーセに告つていひたまひけるは、は人と畜ちくと
 を論ろんず、凡みなてイスラエルの子孫こゝろの中の始はじて生なきたる首生しゆせいをを皆聖みな
 別べつて我われに歸かへせしむべし、は是こゝはわが所屬しよじやくあきまゐり、はモーセ、民たみにいひ
 ける、は汝等なんたエロブトを出いで奴隸こゝろたる家いへを出いるこの日ひを、は之こゝに
 水みづ能あたる手てをもて汝等なんたを此こゝより導なきいだし、はたまへををり、は導なき
 きたるパンぱんを食たふべからず、はアヒソフの月つきの此こゝ日ひあんなら出いづ、は
 エホバ汝なんたを導なきてカナンかなんへ、はテラ人てらじん、アモリ人あもりじん、ヒビ人ひびじん、エブス人えぶすじんの地
 すまは、はろの汝なんたにあたへんと、は汝なんたの先祖せんぞたちに招まねひたまひし、は彼乳
 と蜜みつの流ながる土地ちに、は至いたらまゐり、はたまひん、は購かひあんな、は此月このつきに是こゝ禮式らいしきを守
 るべし、は七日ななひの間あひだあんな、は酔よめいよぬ、はパンぱんを食たひ、は第七日ななひにエホバの
 節ふしををすべし、は酔よめいよぬ、はパンぱんを七日ななひくらふべし、は酔よめいよぬ、はた

シを汝の所におくありき又汝の境の中にて汝の言をパン酵をお
 くるかき汝の日に汝の子を前して言べし是を看るエロブト
 より出る時エホバの我を爲したまひし事のためありき是
 をあんぢの手におきて記號とあし汝の目の間におきて記號とあ
 してエホバの法律を汝に口お在まむべし其はエホバ能ある手
 もて汝をエロブトより導きいだしたまへをなりき是故に年々ろ
 け期おいたりてみれば例をまもるべしエホバ汝どあんぢれ先祖
 等お誓ひたまひしおどく汝をカナシ人の地にみちびきて之を汝
 に與へたまひん時汝凡て始て生きたる者および汝の有る畜の
 初生を悉く分ちてエホバお師せまむべし男牡のニホバの所屬あ
 るべし又驢馬の初子の皆羔羊をもて贖ふべしもし願はずをろ
 の頸を折るべし汝に子等お中れ長子ある人はみな贖ふべし言後
 お汝に子汝お問て是に何あると言をこれに言べしエホバ能ある

手をもて我等をエロブトより出し奴隸たりし家より出したまへ
 りき當時バロ剛愎にして我等を去まめざりしかをエホバエロブ
 トの國の中の長子たる者を人の長子より畜の初生まで盡く殺し
 たまへり是故に始めて生れし牡を盡くエホバお犧牲お献ぐ但し
 わが子等お中れ長子の之を贖ふありき是をあんぢの手にあきて
 號とあし汝に目お開おきて認とあすべしエホバ能ある手をも
 て我等をエロブトより導きいだしたまひたればなりき倍バロ
 民をさらめし時ベリシテ人の地お道りけきとも神彼等をま
 ちびきて其地を通りたまひざりき其の民戰爭を見バ倫てエロブ
 トお歸るあらんと神おもひたまひたれをありき神お海は曠野の
 道より民を導きたまふイスラエルの子孫行伍をたてエロブト
 の國より出づ其時モーセのヨセフの骨を携ふ是のヨセフ神か
 ゐらず汝らを養きたまふべければ汝らわが骨を此より携へ出づ

べしといひてイスラエルの子孫を固く誓せたまふあり。斯てり
 れらエホナより進きて曠野の端あるエタムを幕張す。三エホナ
 れらの前へ往たまひ、晝の雲の柱をもてり、夜を導き、夜火の柱
 をもて彼らを照して晝夜往す。ましましたまふ。三民の前に晝の雲
 の柱を除きたまひ、夜火の柱の柱をのぞきたまひ、す
 爾の子孫に言て、轉回てニゲルと海に間あるビハヒロラは前に
 あたりて、パアルセゴンの前に幕を張まめ、其にむりひて海の傍
 に幕を張るべし。ニゲル、イストラエルの子孫は事をあたりて、彼等の
 ろの地に迷ひをりて曠野に閉こめられたるをらんといふべけれ
 ばなり。我ハロの心を剛愎にすべけれ。ハロ彼等の後を遣はん
 我ハロとて凡の軍勢に由て譽を得。エホナ人を去て吾エホバ
 なるを知らめんと、彼等すなわち斯なせり。エホナに其の迷さりたる

ひとエホナト王を聞えけれ。ハロとろの臣下等民の事おぼしめて
 心を變て言ふ。我等何て斯イストラエルを去まめて我ハ事さる
 むるが、おどき事をなしたるや。エホナすむらろの車を備へ、民
 を將て己にたたがひ、まめ七選拔の戦車六百輛。エホナトの詔の
 戦車および其の諸の軍長等を率ゐたり。エホバ、エホナト王ハロ
 の心を剛愎おしたまひ、たれを彼イストラエルの子孫の後を遣ふイ
 スラエルの子孫の高らりある手によりて出えあり。エホナト人
 等ハロの馬車およびろの騎兵と軍勢、彼等の後を遣てろの、パアル
 セゴンの前あるビハヒロラの邊、海の傍に幕を張る。お遅つけ
 り、エホナの近よりし時、イストラエルの子孫目をあげて視し。エホ
 ナト人己の後を進まきたり、去りて痛く懼れたり。是を於てイストラ
 エルの子孫エホバに呼號り。且、モヒセに言ける。ハエホナトハ墓
 のあらざるがために汝われらをたづさへい、だして曠野に死なむ

るや何故に汝われらをエロプトより導きいだして斯われらに爲
 やせ我等がエロプトにて汝に告て我等を棄おき我らと志てエロ
 プト人に事止めよと言し言は是あらずや其の曠野にて死るより
 もエロプト人に事するの善れバありまモ一モ民はいひける汝ら
 懼るゝあるれ立てエホバが今日汝等のために爲たまはんとあ
 の救を見よ汝ら夕今日見たるエロプト人をバ汝らうさねて復み
 れを見ること絶てあるべきあり言エホバ汝等のために戦ひた
 まらん汝等の静りて居るべし其時にエホバモーセおひたまひ
 ける汝等えんや我に呼ひるやオストラエルの子孫も言て進みゆ
 止めよ汝杖を擧げ手を海の上に伸て之を分ちオストラエルの子
 孫を志て海の中は乾ける所を往止めよ我エロプト人は心を剛
 愼にすべけれを彼等らの後にまたがひて入るべし我あくしてバ
 どのの諸の軍勢あよびろの戦車と騎兵も因て榮譽を得ん我

をバロどのの戦車と騎兵とによりて榮譽をえん時エロプト人の
 我のエホバあるを知らんま愛おオストラエルの陳營の前を行神の
 使者移りてろの後に行けり即ち雲の柱の前面をはなれて後に
 立ちまエロプト人の陳營とオストラエルの陳營の間に至りける
 ゐ彼をためあり雲とあり暗とあり是がために夜を照せり是を
 もて彼と是と夜に中お相近づみさきき三モーセ手を海の上お伸
 けれバエホバ終夜強き東風をもて海を退らめ海を陸地とあし
 たまひて水邊お分れたり三オストラエルの子孫海に中の乾ける所
 を行くお水は彼等の右左お墮とあれりエロプト人等バロの馬
 車騎兵みあるの後にまたがひて海の中に入る言曉おエホバ火と
 雲との柱の中よりエロプト人の軍勢を留まエロプト人の軍勢を
 個とし其車の輪を脱して行に重くあらめたまひけよエロ
 プト人言ふ我等オストラエルを離して逃ん其のエホバかどらのた

めにエロツト人ど職へをありと云時にエホバモーセに言たまひけるに汝の手を海の上に伸て水をエロツト人どろの戦車と騎兵の上に流き反らめりよと云モーセするに手を海の上に伸けるに夜明にあよひて海木の勢力にかへりたきバエロツト人どろに逆ひて逃たりたまふエホバエロツト人を海の中に擲ちたまへり云脚ち水漉反りて戦車と騎兵を覆ひイストラエルの後に来たがひて海にいらしバロの軍勢を悉く覆へり一人も遺れる者あざりき然とイストラエルの子孫は海の中の乾ける所を歩ましむ水はろの右左に墮どる色り辛斯エホバこの日イストラエルをエロツト人の手より救ひたまへりイストラエルはエロツト人どろ海邊に死をるを見たり云イストラエルはたエホバをエロツト人に爲たまひし天ある事を見たり是に於て兵エホバを長きエホバどろの僕モトを信じたなり

是に於てモーセおよびイストラエルの子孫この歌をエホバに誦ふ云く我エホバを歌ひ頌ん彼は高らかに高くいますあり彼は馬どろの乗者を海にあげうちたせへりわが力わが歌はエホバなり彼わが救拯どありたまへり彼はわが神あり我こそを頌美ん彼はわが父の神あり我こそを崇めんエホバは軍人にして其名はエホバあり云彼バロの戦車どろの軍勢を海に投すてたまふバロの勝きたる軍長等は紅海に沈めり云大水りきを淹ひて彼等石のおどくに淵の底に下る云エホバよ汝の右の手は力をもて榮光をあらはす云ホバよ汝の右の手は敵を碎く七汝の大なる榮光をもて汝の汝にたち進ぶ者を滅したまふ汝怒を發すきを彼等は葉のおどくに焚つくさる云汝の鼻の息によりて水積かさあり浪堅く立て岸のおどくに成り大水海の中に經る云敵の言ふ我退て退つき抜取物を分たん我かきらに因てわが心を飽えめん

我劍を抜んわが手のさりを亡さんど、汝氣を吹たまへを海あり
 らを覆ひて彼等の猛烈き水に鉛のおとくに沈めりしエホバは神
 の中に誰の汝に如ものあらん誰の汝のおとく聖して榮あり讃べ
 くして威ありて奇事を行ふ者あらんや、汝の右の手を伸た
 まへを地をさりを香むま、汝の右の眼ひし民を恩恵をもて導き、汝
 の力をもて彼等を汝の聖き居所に引たまふ、古國々の民聞て慄へ
 ベリ、エホバに住む者畏懼を懐くま、エホバの君等、眼きモテアの剛者
 戦慄くカナシに住る者、まな消うせんま、畏懼を戦慄あさりに及ぶ
 汝の腕の大あるがために彼らの石のおとくに賦然たり、エホバよ
 汝の民の通り過るまで、汝の買たまひし民の通過るまで、然るべし
 ま、汝の民を導きてこれを汝の産業に山に植たまはん、エホバよ、是す
 むのち汝の居所とせんとて、汝の設けたまひし者あり、主よ、是汝の
 手は建たる聖所あり、ま、エホバの世々、限るく王たるべし、ま、期ハロ

の馬の車および騎兵ども、海にいらま、エホバ海の水を彼
 等の上お流れ還らまめたまひしが、イスラエルの子孫は海の中に
 ありて、旱地を通れり、平時のアロンの姉ある預言者、エホバを
 手おとるに、錫等みる彼おま、たがひて出で、鼓をとり且踊る、エホバ
 アムするはち、彼等に和へて言ふ、汝等エホバを歌ひ、願よ、彼は高ら
 むに高きいとす、あり、彼は馬どろの乗者を海お、携ちたまへり、ま
 期て、モーセ、紅海より、イスラエルを導きて、エホバの曠野あり、曠
 野に三日歩みたり、ま、水を得ざり、ま、彼ら還に、エホバおいたり、ま
 が、エホバの水、苦くして、飲くことを得ざり、ま、是をもて、其名は、エホバ、苦と
 呼る、ま、是あ、於て、民、モーセおむ、ひて、歌き、我等何れを飲んか、と言け
 れを、ま、モーセ、エホバに呼はりし、ま、エホバ、みきは、一本の水を、示し
 た、ま、ひたれを、則ち、みれを、水お、扱われし、ま、水、甘く、なれり、彼、處、おて
 エホバ、民のため、に、法、度、と、法、律、を、たて、たまひ、彼、處、にて、これ、を、試、み

て言たまはく汝もし善く汝の神エホバの聲を聴きたらばエホバの目お善と見ることを見しるの誡命お耳を傾けしるの誡の法度を守る我は汝をエホバに人に加へしどころの病をいも汝に加へざるべし其の我はエホバにして汝を醫を者あるをありとて斯て彼等メリムお至り其處に水の井十二椽七十本あり彼處おて彼等水の傍お暮張す

第二十三節 斯てメリムを出たらちてイスラエルの子孫の會衆のロプトの地を出しより二箇月の十五日お皆メリムとシナイの間あるレンの曠野おいたりけるるニ其曠野においてイスラエルの全會衆モーセとアロンお向ひて叫けりニ即ちイスラエルの子孫かれらお言けるは我等エホバの地お於て肉の鍋の側に坐り飽までおパンを食ひし時おエホバの手およりて死たらを善りし者を汝等は此の曠野に我等を導きいだしてこの全會を飢ふ死なめ

んどするあり口時おエホバモーセお言たまひけるは視よ我パンを汝らのためお天より降さん民いでし日用の分を毎日飲むべし期して我が色ら夕の法律おまたたぐや否を試みん第六日おは彼等の取れたる者を調理よべし其は日々に飲る者の二倍あるべしニモーセとアロン、イスラエルの全の子孫に言けるは夕にいたらば汝等はエホバお汝らをエホバの地より導きいだしたまひしなるを知にいたらん又朝にいたらを汝等エホバの榮光を見ん其はエホバおんちらびエホバお向ひて叫くを聞たまへむあり我等を導どおして汝等は我等おむひひて叫くやニモーセまた言けるはエホバ夕には汝等お肉を與へて食ひしめ朝にはパンをあたへて飽めたまはん其はエホバ己にむひひて汝等お叫くどあろの怨言を聞給へむあり我等を離ど爲や汝等の怨言は我等にむひひてするお非ずエホバにむかひてするありニモーセア

ロシに言けるハイスラエルの子孫の全會衆ハ言ヘ汝等エホバの
 前マ近カよれエホバあんぢらの怨言ウラハを開給ヒりぞアロンするハ
 イスラエルの子孫の全會衆ハ語コトまかむ彼等曠野を望ノゾむハ
 の榮光雲の中ナカハ斷ツはるぞエホバモーセに告ツげ言たまひけるハ
 我ワイスラエルの子孫の怨言ウラハを聞クき汝等告ツげて言ヘ汝等夕ユフハ肉を
 食クハ朝アサハ肉ハパンに飽マべし而シテして我ワハエホバにして汝等の禱イタある
 事コトを知ルヒにいたらんぞ即ツち夕ユフにおよびて鍋ナベきたりて鍋を覆フふ
 又朝アサにおよびて露ツル營テの四圍ヨロにおきしむ言コトるおける露ツル乾カくにあ
 たりて曠野の表ウラハ霜しもたささき小チき圓マき者モノ地にありまイスラエル
 ハ子孫コノミみ色イロを見て此コノ何ニや互ツハ言コトふ其ノ何ニたるをシら
 色イロをシらモシセかれらハ言コトけるハ是レハエホバが汝等ハ食シわたり
 へたまふパンありまエホバの命イじたまふぞ是レハエホバの事コトハ是レあり即ツ
 ち各ツろハ食シふぞ是レハ言コト給ヒて之レを飲ムめ汝等ハ人ツ敵ミあまたシて

一人ヒトに一ヒトオメルを取リ各人ツろの天幕テノマをシる者等ノのためみ色イロを
 取リべしセイスラエルハ子孫コノミかくシるせしニ其飲ムるトみ乃ニ多クきと
 少チきとありまエホバオメルをもてみ色イロを置キるニ多ク飲ムめし者ノにも
 餘リるトみろ無く少チ飲ムし者ノも足ラぬトころ無クき者ノの食シふと
 みろに備ヘてこれを飲ムめたりモモーセ彼等ノに離レも朝アサまでみれを
 覆フしハク可クらずト言フりモ然ルるニ彼等ノモーセに聽キたまはシずモ
 或者ノハこれを朝アサまで覆フしたりモ是レハ過シたりリて臭クありぬモモーセ
 れを怒ルる三人ヒト々各ツろの食シふトころニ備ヘて毎朝ツ之レを飲ムめシが
 日熱ヒなきハ消ユゆニ第六日ノハいたりて人々ノ二倍ノのパンを飲ムめたり
 即ツち一人ヒトに二オメルを飲ムむるニ會衆ノハ長シ皆ツきたりて之レをモーセ
 に告ツぐニモーセハ是レらに言フエホバの言コトたまふトみろ是レのト
 し明日ノハエホバの聖安息日ノにして休息ノあり今日ノ汝等ノ烤キんとする
 者ノを考ヘしハ煮クんとする者ノを煮クよ其ノ残リさる者ノハ昔ノ明朝ノまでシ煮クめハク

べし言欲等モ一セの命せしごとくに翌朝まで盡めおさしお臭く
 あるふど無く又蟲もろの中へ生ぜざりき三モ一セ言ふ汝等今日
 其を食へ今日ハエホバの安息日なれば今日ハ汝等こそを野に獲
 ざるべし六日の間汝等これを斂むべし第七日は安息日なれば
 ろの日には有ざるべし然るに民の中に七日ハ出て斂めんとせ
 し者ありしを得どもろ無りき是はあいてエホバ、モ一セふ言た
 さひけるは何時まで汝等は吾を誰命とわす律法をまもることを
 せざるや三汝等視よエホバをんちちハ安息日を賜へり故に第六
 日ハ二日の食物を汝等あわたへたまふなり汝等おのづかの處
 へ休みをと第七日ハゆるの處より出る者あるべからず是は民第
 七日に休息り三イスラエルの家の物の名をマナと稱り是は是
 の實れごとくにして白く其味ハ蜜をいれたる菓子のごとし三モ
 一セ言ふエホバの命じたまふところは是れごとし是を一オメハ

て汝等の代々ハ子孫のためにたくはへおくべし是ハわが汝等を
 エホバトの地より導きいだせし時に曠野にて汝等を養ひしごと
 ろのパンを之に見さしめんためなり三而してモ一セ、アロンに言
 けるハ蓋を取てろれの中にマナ一オメルを盛てこそをエホバの前
 にあき汝等れ代々の子孫のためにたくはふべし言エホバのモ一
 セに命じたまひし如くにアロンこそを律法の前におきてたくは
 ふ三イスラエルハ子孫の人ハ住る地ハ至るまで四十年の間マナ
 を食へり即ちカナンの地の境にいたるまでマナを食へり三オメ
 ルハエハハ十分れ一あり
 第二十一節
 第二十二節
 第二十三節
 第二十四節
 第二十五節
 第二十六節
 第二十七節
 第二十八節
 第二十九節
 第三十節
 第三十一節
 第三十二節
 第三十三節
 第三十四節
 第三十五節
 第三十六節
 第三十七節
 第三十八節
 第三十九節
 第四十節
 第四十一節
 第四十二節
 第四十三節
 第四十四節
 第四十五節
 第四十六節
 第四十七節
 第四十八節
 第四十九節
 第五十節
 第五十一節
 第五十二節
 第五十三節
 第五十四節
 第五十五節
 第五十六節
 第五十七節
 第五十八節
 第五十九節
 第六十節
 第六十一節
 第六十二節
 第六十三節
 第六十四節
 第六十五節
 第六十六節
 第六十七節
 第六十八節
 第六十九節
 第七十節
 第七十一節
 第七十二節
 第七十三節
 第七十四節
 第七十五節
 第七十六節
 第七十七節
 第七十八節
 第七十九節
 第八十節
 第八十一節
 第八十二節
 第八十三節
 第八十四節
 第八十五節
 第八十六節
 第八十七節
 第八十八節
 第八十九節
 第九十節
 第九十一節
 第九十二節
 第九十三節
 第九十四節
 第九十五節
 第九十六節
 第九十七節
 第九十八節
 第九十九節
 第一百節
 第一節
 第二節
 第三節
 第四節
 第五節
 第六節
 第七節
 第八節
 第九節
 第十節
 第十一節
 第十二節
 第十三節
 第十四節
 第十五節
 第十六節
 第十七節
 第十八節
 第十九節
 第二十節
 第二十一節
 第二十二節
 第二十三節
 第二十四節
 第二十五節
 第二十六節
 第二十七節
 第二十八節
 第二十九節
 第三十節
 第三十一節
 第三十二節
 第三十三節
 第三十四節
 第三十五節
 第三十六節
 第三十七節
 第三十八節
 第三十九節
 第四十節
 第四十一節
 第四十二節
 第四十三節
 第四十四節
 第四十五節
 第四十六節
 第四十七節
 第四十八節
 第四十九節
 第五十節
 第五十一節
 第五十二節
 第五十三節
 第五十四節
 第五十五節
 第五十六節
 第五十七節
 第五十八節
 第五十九節
 第六十節
 第六十一節
 第六十二節
 第六十三節
 第六十四節
 第六十五節
 第六十六節
 第六十七節
 第六十八節
 第六十九節
 第七十節
 第七十一節
 第七十二節
 第七十三節
 第七十四節
 第七十五節
 第七十六節
 第七十七節
 第七十八節
 第七十九節
 第八十節
 第八十一節
 第八十二節
 第八十三節
 第八十四節
 第八十五節
 第八十六節
 第八十七節
 第八十八節
 第八十九節
 第九十節
 第九十一節
 第九十二節
 第九十三節
 第九十四節
 第九十五節
 第九十六節
 第九十七節
 第九十八節
 第九十九節
 第一百節

や何ぞエホバを試むるや。彼處にて民水に濁き民モーセにむり
 ひて嘆き言ふ汝を遣て我等をエラプトより導きいだして我等を
 われられ子女とわきらは衆畜を濁お死なめんとするや。是に於
 てモーセ、エホバに呼わりて言ふ我は民に何をなすべきや。彼等
 の殆ど我を石にて撃んとするあり。エホバ、モーセに言たまひけ
 る。汝民の前に進み民中の或長老等を作ひけ。汝が河を撃し
 杖を手お執て往よ。視よ我るこにて汝の前にあたりてホレブは
 磐の上に立ん汝磐を撃べし。然せば其より水出ん民此を飲べし
 モーセするはちイストラエルは長老等の前にて堪おこるへり。セウ
 くて彼らの處の名をマサと呼び又メリバと呼り。是のイストラエ
 ルの子孫の争ひし由り又そのエホバの口より言けるは我等のため
 と言てエホバを試みし由り。又その時にアマレクきたりてイストラ
 エルとレビデムお戦ふ。モーセ、コシユアに言けるは我等のため

お人を探し出てアマレクと戦へ。明日我神の杖を手おどりて岡の
 嶺に立ん。コレユアするはちモーセの已に言しごとくに爲し。ア
 マレクと戦ふモーセ、アロンおよびホルの岡に登り去る。モー
 ーセ手を取をばイスラエル勝ち手を垂さ。アマレク勝ち。然
 るにモーセれ手重くありたきバアロンとホル石をとりてモーセ
 の下におきてその上に坐せ。えめ一人の此方一人の彼方。ありて
 モーセの手を支へたり。えかえろの手日の没まで垂下さ。り。是
 ちあしてコレユア刃をもてアマレクとろの民を敗る。り。エホバ
 モーセに言たまひける。之を手に筆して記念となし。コレユアの
 耳あてきをいよ。我必ずアマレクの名を塗抹て天下にこれを誌
 する。こと。无らえめん。と。斯てモーセ一座の壇を築き。その名を
 ホバニレ(エホバ吾族と稱ふ)と。モーセ云けらく。エホバは實位。おむ
 り。ひて手を舉ることあり。エホバ世々アマレクと戦ひた。えはん

第十八章 一 妹おモーセの外舅あるエデアンエドムの祭司エトロエト神カミが凡
 てモーセのため又ろの民イスラエルのためお爲したまひし事エ
 ホバガイスラエルをエロプトより導き出したまひし事を聞きニ
 是お於てモーセの外舅エトロの遣り還されてありまモーセの
 妻チッボラツボラどろの二人の子を擧へ来るニろの子の一人の名はケ
 ルシヨムケルシヨムと云ふ是はモーセ我他國に客となりをると言たればあり
 今一人の名はエリエセルエリエセルと曰ふ是はわれ吾父の神われを助け我
 を救ひてバロの劍を免れまめたまふと言たればありエ塔エタモー
 セの外舅エトロ、モーセの子等と妻をつれて曠野あひらに來りモーセの
 神の山お陣を張る處にいたる彼すなはちモーセに言けるは汝
 の外舅なる我エトロ汝の妻および之と供なるろの二人の子をた
 づさへて汝お詣るとせモーセ出てろの外舅を迎へ亂をなして之
 お接吻し互おろの安否を問て其お天幕お入る入而来てモーセエ

ホバるイスラエルのためおバロとエロプト人とお爲たまひし諸
 の事と途にて遭し諸の艱難およびエホバの已等を拯ひたまひし
 事をろの外舅に語りければエトロ、エホバのイスラエルをエロ
 プト人の手より救ひいだして之お諸の恩典をたまひし事を喜べ
 りエトロすなはち言けるはエホバは頌べき哉汝等をエロプト
 人の手とバロの手より救ひいだし民をエロプト人の手の下より
 拯ひいだせり今我知るエホバは諸の神よりも大なり彼等傲慢
 を逞しうまて事をあせしるエホバおれらに勝りたまひしてモー
 セの外舅エトロ燔祭と犠牲をエホバお持きたれりアロンおよび
 イスラエルの長老等皆きたりてモーセの外舅どもに神の前お
 食をあす次の日おいたりてモーセ坐して民を審判き志お民は
 朝より夕までモーセの傍に立ち言モーセの外舅モーセの凡て民
 に爲どころを見て言けるは汝お民おあす此事は何あるや何故お

汝は一人坐しをりて民朝より夕まで汝の傍ふたつやモーセの
 外男も言けるは民神も問んとて我も来るなり其彼等事ある時
 は我も来れば我此と彼とを審判して神の法度と律法を知らむ
 モーセの外男も我れに言けるは汝のあすところ善らず汝かあら
 ず氣力おどろへん汝も汝も汝も汝も然らん此事汝もは重
 過ぐ汝一人あては之を爲こどあたひきるべし今吾言を聴け我
 んちお策を授けん願くは神なんちもも在せ汝民のため
 神の前も居り訴訟を神も陳よ汝かれらも法度と律法を教へ彼
 等の歩むべき道と爲べき事とを彼等も示せ又汝全體の民の中
 より賢くて神を畏れ眞實を重んじ利を惡むところの人を選び之
 を民の上も立て千人の司とあし百人の司となし五十人の司とあ
 し十人の司とあすべし而して彼等をあて常も民を轄りまめ
 事は凡てふれを汝も陳まめ小事も凡て彼等もみづからこれを判

るまむべし斯汝の身の煩瑣を省き彼らをして汝もろの任を共
 せしめよ汝もし此事を爲し神もた斯汝に命じなを汝はみれ
 勝ん此民もまた安然あろの所も到るみとを得べしモーセの
 外男の言もまたあひてろの凡て言しごとく成りモーセすなり
 イストラエルの中より選く賢き人を選びてみれを民の長とあし千
 人の司となし百人の司となし五十人の司とあし十人の司となせ
 り兵彼等常も民を轄き難事はこれをモーセも陳べ小事は凡て自
 らこれを判けりモーセも外男を選したればろの國に往

出埃及記

イストラエルの子孫もシヤブトの地を出て後第三月にい
 たりて其日申ナイの曠野も至るに即ちあきらレビデムを出た
 りて申ナイの曠野もいたり曠野も幕を張り彼處にてイストラエル
 は山の前も營を設けたりニ愛もせしせ登りて神も詣るもエホバ

山より彼を呼て言たまはく汝はエホバト人我をなしたるごころの事
 の子孫を告べし汝らはエホバト人我をなしたるごころの事
 を見我を驚の質をのべて汝らを負て我をいたらまめしを見たり
 然を汝等もし善く我を言を聞きわが契約を守らむ汝等は諸の
 民に急りてわが實となるべし至地はわが所有するべし汝等は
 は我を對して祭司の國どあり聖き民とあるべし是等の言語を汝
 イストラエルの子孫を告べし七是をわいてモーセ來りて民の長老
 等と呼ばびエホバの己に命じたまひし言を盡くろの前に陳たまは
 民皆等しく應へて言けるはエホバの言たまひし所は皆是ら之
 を爲べしとモーセすなり民の言をエホバに告ぐエホバ、モー
 セに言たまひけるは視よ我密雲の中にをりて汝に臨む是民を去
 て我を汝と語るを聞まめて汝を永く信ぜまめんがためありとモ
 ーセ民の言をエホバに告たりエホバ、モーセに言たまひけるは

汝民の所に往て今日明日ふきを定め之にろの衣服を解せ準備
 をなして三日を待て其は第三日にエホバ全体の民の目の前にて
 シナイ山に降ればあり汝民のために四周に境界を設けて言べ
 し汝等慎んで山に登るあるごころの境界に捫るべあらす山に捫る
 者のあらす殺さるべし手て之に觸べくらす其者のかみらす
 石にて撃ふるさ或の射ころさるべし眼と人を言す生るみど
 を得じ喇叭を長く吹鳴さを人々山に上るべしとモーセする
 ち山を下り民にいたりて民を理め民の衣服を濯よとモーセ民
 に言けるの準備をなして三日を待て婦人に近づくべあらす
 くて三日の朝にいたりて雷と電および密雲山の上にあり又喇叭
 の聲ありて甚だ高うり聲にある民みる雲ふとモーセ密より民を
 引いで主神に會ふ民山の麓に立たまはくシナイ山都て煙を出せり
 エホバ火の中にありてろの上を下りたまへをなりろの煙窟の煙

のこどく立のぼり出すべて震ふま喇叭の聲高くなりゆきての
 げしくありける時モーセ言を出すに神聲をもて應へたまふ
 エホバに山に下りろの山の頂上にはいとし而してエホバ山に頂
 上にモーセを召たまひけむモーセ上さりてエホバ、モーセに言
 たまひけるに下りて民を警めよ恐らくは民推破りてエホバに來
 りて見んとし多の者死るにいたらん又エホバに近くとみろの祭
 司等にろの身を潔めまよ恐くはエホバを辱んモーセ
 エホバに言けるに民のシナイ山に得のぼらじ其の汝わをら
 めて山の四周に境界をたて山を聖めよ言たまひたきをなり
 エホバの言に言たまひけるは往け下れ而して汝とアロンどもに
 上り來るべし但祭司等と民には推破りて我にのぼりきたらまめ
 され恐らくは我を辱れらるを辱んモーセ民にくだりゆきてこれに
 告たり

神の一切の言を宣て言たまはく

神の一切の言を宣て言たまはくニ我は汝の神エホバ
 汝をエロプトの地の奴隸たる家より導き出せし者なりニ汝我
 面の前を我の外何物をも神とすべからずニ汝自己のため何の
 偶像をも彫むべからず又上天にある者下地ある者あらず
 地に下れ水の中にある者の何れ形状をも作るべからずニ之を
 拜ひべからずことお事ふべからず我エホバ汝の神に嫉む利ある
 べ我を惡む者あむかひて父の罪を子にむいて三四代におよ
 ばしニ我を愛しわが命を守る者あに恩恵をばさむして千代に
 いたるなりニ汝の神エホバの名を妄に口あわぐべからずエホバ
 はおのきの名を妄に口にあぐる罪を罰せでいおかざるべしニ安
 息日を憶えてふれを聖潔すべしニ六日は間勞きて汝の一切の業
 を爲すべしニ七日は汝の神エホバの安息あるを何の業務をも爲す
 らず汝も汝の子息、息女も汝の僕婢も汝の家畜も汝の門の中に

をる他國（異國）人（民）も然（しか）り（し）其（その）の（エホバ）六日（の）の中に天（と）地（と）海（と）其（その）等（ら）
 の中（の）一切（の）の物（を）を作りて第七日（に）小息（を）みたればあり是（を）もてエホ
 バ安息日（を）を祝（ひ）ひて聖日（と）と（ま）た（ま）ふ（と）汝（は）父母（を）を敬（へ）是（は）汝（の）神（を）
 エホバ（の）汝（は）た（ま）ふ所（の）地に汝（の）生命（の）の長（う）ら（ん）た（め）あり汝
 殺（す）な（ら）れ（ば）汝（は）姦淫（を）する（も）ら（せ）汝（は）盜（む）む（も）ら（せ）汝（の）隣人（に）對（し）
 して虚妄（の）の証據（を）をたつる（も）ら（せ）汝（の）隣人（の）家（を）を食（ひ）る（も）か（き）
 又汝（の）隣人（の）妻（を）ふ（び）ろ（の）僕婢（牛驢馬）なら（び）凡（て）汝（の）隣人（の）
 所有（を）を食（ひ）る（も）ら（せ）大民（みな）雷（と）電（と）南風（の）音（と）山（の）煙（と）を見
 たり民（は）これを見て懼（そ）きを（を）れ（よ）きて遠（く）立（ち）モ（ー）セ（い）ひ（け）
 汝（は）わ（き）ら（し）語（を）我（ら）等（も）聽（ん）唯神（の）我（ら）小語（り）た（ま）ふ（と）あ（ら）さ
 ら（ま）め（よ）恐（ろ）く（い）我等（も）死（ん）モ（ー）セ（民）小語（り）は（畏）る（も）か（き）神
 汝（ら）を試（み）ん（た）め又（ら）れ（畏）怖（を）汝（ら）の面（は）前（に）あ（さ）て汝（ら）小罪
 を犯（さ）す（も）ら（せ）め（ん）た（め）小臨（み）た（ま）へ（る）なり（と）是（は）あ（い）て民（は）遠

く（お）立（ち）し（グ）モ（ー）セ（の）神（の）の在（す）ところの濃雲（を）進（み）いたる（と）
 ホバ（モ）セ（の）言（は）たま（ひ）ける（は）汝（は）イスラエル（の）子孫（を）斯（い）ふ（べ）し
 汝等（は）天（より）わ（ら）ぬ汝等（は）語（ふ）を見（た）り汝等（は）何（を）も我（ら）あ（ら）べ
 て造（つ）る（べ）ら（ず）銀（の）神（を）も金（の）神（を）も汝（ら）のため（に）造（つ）る（べ）ら（ず）
 汝（は）土（に）壇（を）を我（ら）築（き）て（ろ）の上（に）汝（の）燔祭（と）酬恩祭（と）汝（は）羊（を）
 牛（を）を（ろ）ふ（べ）し我（ら）は（凡）て（わ）ら（ぬ）名（を）を憶（え）え（ま）ひ（る）處（を）て汝（は）臨（ま）て
 汝（を）祝（ま）ん（だ）汝（も）し石（の）壇（を）を我（ら）あ（つ）くる（も）ら（し）琢石（を）もて（み）き
 を築（き）く（べ）ら（ず）其（の）汝（も）し鑿（を）を（み）き（お）當（あ）ら（ば）之（を）汚（す）べ（き）バ
 あり汝（は）階（より）足（を）壇（を）升（る）べ（ら）ず是（は）汝（の）取（る）處（に）の上（に）
 踏（む）る（も）こ（と）あ（ら）ん（た）めあり
 是（は）汝（の）民（の）前（に）立（べ）き律例（あり）汝（は）アベル（の）僕（を）
 買（ひ）ふ時（は）六年（の）間（に）に驛（を）爲（し）め第七年（は）驛（を）索（す）して（み）
 色（を）釋（つ）べ（し）彼（も）し獨身（に）て來（ら）し獨身（を）て去（べ）し若妻（あ）ら

をろの妻とせよとよもに去べし。もしろれ主人とせよに妻をわたへて男子又ハ女子もよも生れたらむ妻とろの子等は主人に属すべし。彼は獨身ふて去べし。三僕もし我わが主人とどが妻子を愛す。我釋たるよを好まずと明白に言ハル。その主人とせよを士師の所に携ゆ。又戸あるひは石柱の所につきゆくべし。而して主人を以ててる色の耳を刺しはすべし。彼は何時までもこれ事ふべきあり。七人若ろの娘を賣て娘となす時ハ僕のごとく去べらさずハ彼もしろの約せし主人の心に適ざる時はろの主人も色を贈はしむることを得べし。然と之ハ眞實ならずして亦て色を異邦人ハ賣みどをあすを得べらさず。又もし之を己の子に與へんと約しむる色を女子のごとくお侍ふべし。十父もしろれ子のためハ別に娶る。みどあるども彼に食物と衣服を與ふる事とろの交接の道どハふれを間斷去むべらさず。其人のれに此三を行ハすハ彼は金をつ

くれハすして出さることを得べし。主人を撃て死しめたる者は必ず殺さるべし。若人みづらち畫策ことあきき神人をろの手おらしめたまふことある時は我汝のため一箇ハ處を設くまハろの人其處に逃るべし。昔人もし故にろの隣人を謀りて殺す時は汝も色をわらばばより執へてきて殺すべし。まろの父あるひは母を撃つものハ必ず殺さるべし。其人を携帶したる者は之を賣たるも尙ろの手にあるも必ず殺さるべし。まろの父あるひは母を罵る者は殺さるべし。其人相争ふ時ハ一人石またハ拳をもてろに對手を撃ちしハ死にいたらずして床おつくみどあらんに若者起あがりて杖によりて歩むひいたらむ之を撃たる者の殺さるべし。但しこれ業を休める賠償をあして之を全く愈しむべきあり。人もし杖をもてろの僕あるひは婢を撃んふろの手比下ハ死を必ず罰せらるべし。三然と彼もし一日二日生れびるハ其人ハ罰せらざるべ

し彼のろの人の金子をばりて人もし相争ひて妬める婦を棄
 ちろの子を墮させんお別に害みき時め必ずろの婦人の夫に要む
 る所にしたぐひて刑らき法官は定むる所を爲べし若し若ある時
 は生命にて生命を償ひ言目にて目を償ひ齒にて齒を償ひ手にて
 手を償ひ足にて足を償ひ鼻にて鼻を償ひ眼にて眼を償ひ打傷
 にて打傷を償ふべし人もしろの僕れ一れ目あるひは焼れ一れ
 目を撃てみれと喪さばろれ目れたために之と釋つべし又もしろ
 の僕の一箇の齒の焼れ一箇の齒を打落ばろの齒のため之を釋
 つべし又牛もし男あるひは女を傷て死めらばろれ牛をば必ず
 石にて撃殺すべしろれ肉の食ふべららず但しろの牛の主の罪み
 し然と牛もし素より衝くみどを必ず者にしてろれ主みれびた
 めに忠告をうけし事あるに之を守りあらずして遂に男あるひは
 女を殺すに至らぬめらばろれ牛の石にて撃れろの主もまた殺さ

るべし手若彼贖罪金を命せられん凡てろの命せられし者を生
 命の債に出すべし男子を傷も女子を傷もみの例にまたぐひて
 必ずべし牛もし僕あるひは焼を傷ばろの主人に銀三十シケル
 を與ふべし又ろの牛の石にて撃ふるすべし人もし坑を啓くら
 又人もし穴を掘こをみしこを覆はずして牛あるひは驢馬
 みに陥り言穴の主みきを償ひ金をろれ所有主に與ふべし但し
 ろの死たる畜己の有どあるべし此人の牛もし彼人のを衝殺
 さば二人ろの生る牛を賣てろの償をわりつべし又ろの死たるの
 をも分つべし然とろの牛素より衝みどを必ず者あるみど知を
 るにろの主みれを守りぬらざりぬらばろの人かあらず牛をも
 て牛を償ふべし但しろの死たる者己の有どあるべし
 然と人もし牛あるひは羊を竊みてみきを殺し又は賣る時
 は五の牛をもて一の牛を賠償ひ四の羊をもて一の羊を賠償ふべし

もし盜賊の境り入るを見てふれを撃て死なむる時はこれのため
 に血をさすに及ばず。然ど若口いでよりあらむ之のため
 に血をさすべし。盜賊は全く償をさすべし。若物あらざる時は身
 をうりてその竊める物を償ふべし。若その竊める物實に生て
 の手ふあらばその牛驢馬羊たるわかばはらず倍してこきを償ふ
 べし。人もし田圃あるひは葡萄園の物を食はせその家畜をい
 ちて人の田圃の物を食ふにいたらまむる時は自己の田圃の嘉物
 と自己の葡萄園の嘉物をもてその償をさすべし。火もし逸て刺
 棘にうつりその積わけたる穀物あるひは未だ刈ぎる穀物あるひ
 は田野を燬ばるの火を焚たる者かならずてきを償ふべし。人も
 し金あるひは物を人に預るその人の家より竊みどらきたる時
 はその盜者あらはさむてきを倍して償はしむべし。盜者もし
 あらばます。家の主人を法官ふつれもきて彼がその人の物に手

をのけたるや否を見るべし。何の過愆を論ず牛にもあき驢馬に
 もあき羊にもあき衣服にもあき。又は何の失物にもあき。凡て人の
 見て是其ありと言ふ者ある時は法官の兩造の言を聽べし。而し
 て法官の罪ありとする者ふさを倍してその對手に償ふべし。人
 もし驢馬か牛や羊り又はその他の家畜をその隣人にあづけん
 死し傷けらるるか又は搶ひさらるまふどありて雖もこれを見し
 者あき時は二人の間にはその隣人の物に手をかけず。エホバを
 指て誓ふふどあるべし。然る時はその持主これを承諾べし。彼人は
 償をさすべし。及ばず。然ど若自己の請より竊まれたる時はその所
 有主ふこれを償ふべし。若またその裂ころされし時は其を証據
 のためふ持きたるべし。その裂ころされし者は償ふふあよを古
 人もしその隣人より借たる者あらんあその物傷けられ又死る
 ふどありてその所有主うれどもにをらざる時は必ずみれを償

ふべしまろの所有主うれど其ををらばふれを償ふおよばす雇
 し者なる時もまくり其は雇れて來り志あるれバあり人もし聘定
 わらざる處女を誘ひてみよと寝たらバ必ずふれに聘禮志て妻と
 なすべしまろの父もしみ色をろの人ふ與ふるふとを固く拒まバ
 處女おする聘禮ふてらふて金をこらふべし大魔術をつかふ女を
 生しおくべりす凡て畜を犯す者をバ必ず殺すべしニホバ
 をおきて別の神お犠牲を献る者をを殺すべしニ汝他國の人を惱
 すべからず又みれを虐ぐべからず汝らもニシブトの國にをる時
 は他國の人たりまありニ汝凡て寡婦あるひは孤子を惱すべからず
 ニ汝もし彼等を惱まして彼等且れに呼らバ我りあらずの號呼
 を聽べし言わぬ怒烈しくあり我劍をもて汝らを殺さん汝らの妻
 の寡婦となり汝らの子女は孤子となり汝もし汝どもにあ
 るわが民の貧き者お金を貸す時金貸のごとくあすべからず又

これより利足をとるべからず汝もし人の衣服を賢にどちバ日
 のいる時までこれに歸すべし其のろの身を蔽ふ者は是のま
 にして是のろの膚の衣あればあり彼何の中お寝んや彼われに餌
 いらバ我きらん我の慈悲ある者あればなり汝神を罵るべから
 ず民の主長を誣ふべからず汝の豊満なる物と汝は糲りたる物
 とを献ぐることを怠たるるけ汝れ長子を我お與ふべし汝ま
 た汝れ牛と羊をも斯るすべし即ち七日母とともにをらふめて八
 日にこれを我お與ふべし汝等はは我の聖民とあるべし汝らは野
 ふて獸に殺れし者の肉を食ふべからず汝らみれを犬に投與ふべ
 し

一汝虚妄の風説を言ふらすべからず惡き人と手をおい

せて人を誣る証人とあるべからず汝衆の人にまたがひて惡を
 あすべりらす訴訟おいて答をあすお方りて衆の人おまたがひ

て道を曲べりらずニ汝また貧き人の訴訟を曲て庇くべりらず
 汝もし汝の敵の牛あるひは驢馬の迷ひ去らば遣わらざる
 牽てろの人を認すべしニ汝もし汝を恐む者の驢馬のろの負の下
 お仆さ臥すを見バ償みてこそを遣さるべからず必ずこそを助け
 てろの負を釋べしニ汝貧き者の訴訟ある時あろの判決を曲べり
 らずニ虚假の事あ遠うは無辜者と義者とのきを殺するべき我
 り恐き者を義とするふとあらざるありニ汝賄賂を受べりらず賄
 賂の人の目を暗まし義者の言を曲しむるありニ他國の人を虐ぐ
 べからず汝等ハエロブの國ををる時ハ他國の人あてありたき
 バ他國の人の心を知りたりニ汝六年の間汝の地ハ種播きろの實を
 穫いるべしニ但し第七年ハ休息せしめよ其餘は種播きろの實を
 而して汝の民の貧き者ハ食ふふとを得せしめよ其餘は種播きろの野
 の歡みきを食らん汝の葡萄園も橄欖園も斯のおどくあすべしニ

汝六日の間汝の業ををし七日ハ休息せしめよ
 息ませ汝の婢の子および他國の人をして息をつかしめよ
 お言し事ハ凡て心を用ひよ他の神々の名を稱ふべからずまた之
 を汝の口より聞えしめよ汝年ハ三度わがためお節籠を守る
 べしニ汝無酵パンの節籠をまもるべし即ちわが汝お命せしめど
 くアヒアの月の定の時ハおいて七日の間酔いさぬパンを食ふべ
 し其ハろの月ハ汝エロブトより出たきバあり徒手ハてわが前ハ
 出る者あるべからずまた種蒔の節籠を守るべし是すあはち汝
 ガ勞苦て田野に播る者の初の實を視ふる又取籠の節籠を守る
 べし是するハち汝の勞苦によりて成る者ハ年の終ハ田野より取
 る者ありニ汝の男たる者ハ昔年ハ三次主エホバの前ハ出べし
 夫汝わが犠牲の血を喝いせしパンとよもハ献ぐべからず又わが
 節籠の脂を翌朝まで残しおくべからず汝の地に初ハ結べる實

の初を汝の神エホバの室お持きたるべし汝山羊羔をろの母の乳
 みて養へらす視よ我天の使をつらはして汝先たせ途をて
 汝を守らせ汝をわが備へし處お導らしめん汝等の前お語ミ
 をりろの言ふしたぐへ之を怒らすあかき彼なんぢらの答を赦
 さるべしわが名ろの中おあれバあり汝もし彼が言ふまた
 ぐひ凡てわが言ふろを爲バ我あんぢの敵の敵となり汝の仇の
 仇となるべしわが使汝おさきだちゆきて汝をアモリ人、ヘブ
 ー人、ガナン人、ヒビ人、およびエブス人お導きいたらん我られ
 らを絶べし汝うれらの神を拜むべうらすみれに奉事ベうらす
 彼らの作にならふなり汝其等を悉く毀ちろの偶像を打摧くべ
 し汝等の神エホバに事へよ然バエホバ汝らのバンド水を祝し
 汝らの中より疾病を除きたまはん汝の國の中に流産する者
 なく妊ざる者あるべし我汝の日の戯を盈さん我わが異懼を

あんぢの前に遣し汝が至るとみろの民をよどく取り汝の諸
 の敵を去て汝後を見せまめん我黃蜂を汝の先おつらひさん
 是ヒビ人、カナン人およびヘブ人汝の前より逐えらふべし我
 かきらを一年の中おひ汝の前より逐はらんヒ恐くハ土地荒野
 の戦増て汝を害せん我漸々おららるを汝の前より逐えらはん
 汝らに還お増てろの地を獲おいたらん我あんぢの境をさだめ
 て紅海よりペリシテ人の海おいたらせ曠野より河おいたらしめ
 ん我この地お住る者を汝の手に付さん汝らを汝の前より逐
 はらふべし汝らおよび彼らの神と何の契約をもなすべら
 らす彼らに汝の國お住べきおあらず恐くハ彼ら汝をして我お
 罪を犯さまめん汝もし彼等の神お事あるバろの事ならす汝の機
 檻おみるべきあり

出埃及記

第廿四章

自廿八至卅四章一節

八十七

よびイヌラエルの七十人の長老どもにエホバの詩に上りきた
き面して汝等遙にたちて拜むべしモーセ一人ニホバに近づく
べし彼等近るべあらず又民ももきどもに上るべあらずモ
ーセ來りてエホバの諸の言あひびろの諸の典例を民に告志に民
とる同音に應て云ふエホバの宣ひし言の皆わきらを爲すべし
モーセニホバの言をよこしく書記し朝夙に興いでよ山の麓
に壇を築きイヌラエルの十二の支派にまたがひて十二の柱を建
て面してイヌラエルの子孫の中の少き人等を遣はしてエホバ
に燔祭を献げえめ牛をもて酬恩祭を供へまむホーセ時にろの
血の半をとりて鉢に盛り又ろの血の半を壇の上に灌げりて面し
て契約の書をとりて民に誦さくせたるに彼ら應へて言ふエホバ
の宣ふ所の皆わきらみきを爲て遣ふべしどもモーセするうちろ
の血をとりて民に灑はて言ふ是するうちエホバが此諸の言につ

きて汝と結たまへる契約の血ありんしてモーセ、アロン、ナダブ、ア
ビウおよびイヌラエルの七十人の長老のぼり仰きてイヌラエ
ルの神を見るにろの足の下への透明る青玉をもて作るごとき
物ありて籠たる天空おさも似たりと神のイヌラエルの此頭人等
ふろの手をあげたまひきりき彼等の神を見又食欲をあせりも
ホエホバモーセお言たまひける山に上りて我に來り其處にを
き我わが彼等を教へんために書せる法律と誦命を載るとみ
ろの石の版を汝に與へんモーセろの從者ヨシエアどもに起
あがりモーセのぼりて神の山に至る昔時に彼長老等に言けるは
我等の汝等に歸るまで汝等此に待ちをき視よアロンとホル汝
等どもに在り凡て事ある者の彼等にいたるべし面してモ
ーセ山にのぼりまが雲山を蔽ひをるまするうちエホバの榮光シ
イ山の上に駐りて雲山を蔽ふると六日ありまが七日にいたりて

エホバ雲の中よりモーセを呼たばふもエホバの榮光山の巔に燃る火のごとくにイスラエルの子孫の目に見えたり。モーセ雲の中に入り山に登りモーセ四十日四十夜山に居る。

子孫に告て我に献物を持ちきたれと言へ。凡てその物を取べし。汝等よりれ者よりの汝等々の我を献ぐるごころの物を取べし。汝等よりれらより取べきもの献物は是あり。即ち金、銀、銅、青、紫、紅の線、麻、山羊毛、赤染の牡羊の皮、羆の皮、合歡木、鹽油塗膏、馨しき香を調ふごころの香料。七穂新たよびエホバと胸牌を嵌る玉。八彼等わがためを聖所を作るべし。我々れらの中お住ん。凡てわが汝らお示すとふろ。循ひ幕屋の式様およびその器具の式様。おまたがひてふれを作るべし。十彼等合歡木をもて櫃を作るべし。その長二キユピト半。その洞の一キユピト半。その高の一キユピト半。その

し。汝純金をもて之を蔽ふべし。即ち内外ともおこれを蔽ひ。その上の周囲お金の線を通るべし。汝金の環四箇を鑄てその四の足おつくべし。即ち此旁お二箇の輪。彼旁お二箇の輪をつくべし。また合歡木をもて柱を作りて。こまお金を着すべし。昔而去てその柱を櫃の邊旁の環おさし。いれて。こまをもて櫃を昇べし。また柱の環おさし。いさおくべし。其より脱はなすべからず。汝わが汝お與ふる律法をその櫃お藏むべし。汝純金をもて贖罪所を通るべし。その長二キユピト半。その洞の一キユピト半。その高の長二キユピト半。その洞の一キユピト半。その高の一キユピト半。その

に置かまた我の汝に與ふる律法を櫃の中にお蔵むべし其處にて我の汝に會ひ贖罪の上より律法の櫃の上なる二箇のケルビムの間より去て我イサラエルの子孫のためお足る汝を命ぜんとする諸の事を汝の語ん言汝また合歡木をもて琴を作るべし其の長に二キエビトロの調り一キエビトロの高り一キエビト半なるべし言而して汝純金をこきに着せろの周圍に金の縁をつくるべし汝ろの四圍に掌寬の邊をつくりろの邊の周圍に金の小縁を作るべし言またうれるために金の環四箇を作りろの足の間隔おろの環をつくりべし環の邊の側に附べし是は案を昇どろの杠をいらく處あり言また合歡木をもてろの杠をつくりてこれに金を着すべし案はもきに四て昇るべきあり言汝また其に用ふる皿、匙、杓および酒を濯ぐもろの聲を作るべし即ち純金をもてもきを造るべし言汝案の上お供前のパンを置て常にわが前にあらま

むべし言汝純金をもて一箇の燈臺を造るべし燈臺は醜をもてうちて之を作るべし其の臺輿輪、節、花の共に賜らまひべし又六の枝をろの旁より出まひべし即ち燈臺の三の枝は此旁より出で燈臺の三の枝の彼旁より出しむべし言巴旦杏の花の形せる三の節、および花どもに此枝にあり又巴旦杏の花の形せる三の節、および花どもに彼枝にあるべし燈臺より出る六の枝を皆環のごとくにすべし言巴旦杏の花の形せる四の節、および花どもに燈臺があるべし言二箇の枝の下に一箇の節ありまめ又ろの兩箇の枝の下に一箇の節ありまめ又ろの兩箇の枝の下に一箇の節ありまめ又ろの兩箇の節ありまめ又ろの六の枝とあるは是のごとくなるべし又ろの節と枝とを其の連らまめ皆繩にて打て純金をもて造るべし言又ろれるためお七箇の燈臺を造りろの燈臺を上に置てろの對向を照さしむべし言ろの燈臺と剪燈臺をも純金からしむべ

し 燈臺と此の諸の器具を造るには純金一タラントを用ふべし
 平汝山シナイにて示されし式様にまたぐひて之を作ることを用ひ
 麻アサの捻ひね糸いと青アヲ紫ムラサキおよび紅ベニの糸をもて之を造り精巧テカクなケルピヒをう
 の上に織オリ出デそべしニ一の幕カケの長は二十八キユピト一の幕カケの闊ひろは
 四キユピトあるべし幕は皆みなろの寸尺すんせきを同おなうそべしニろの幕カケ五箇いつ
 を互たがひに連つねわはせ又またろの他の幕カケ五箇をも互たがひに連つねわはすべし
 面おもてしてろの一聯いつれんの幕カケの邊へにあいてろの聯絡處れんごくじよの端はしに青色アヲの繒ぬいを
 付つべし又他の一聯いつれんの幕カケの聯絡處れんごくじよの邊へにも斯かなそべしニ汝キナハ一聯いつれんの
 幕カケに繒ぬい五十いつじゆをつけ又他の一聯いつれんの幕カケの聯絡處れんごくじよの邊へにも繒ぬい五十いつじゆをつ
 け斯かろの繒ぬいを去いて彼かと此こと相對たいせまひべしニ面おもてして金の銀ぎん五十いつじゆ
 を造つくりろの繒ぬいをもて幕カケを連つねわはせて一の幕カケ屋やとみそべしニ汝

また山羊ヤギの毛けをもて幕カケをつくりて幕カケ屋やの上うへの蓋おほとなそべし即すなはち
 幕カケ十一じゆをつくるべしハろの一箇いつくわんの幕カケの長は三十キユピトろの一
 箇いつくわんの幕カケの闊ひろは四キユピトあるべし即すなはちろの十一の幕カケは尺寸せきすんを一
 ふそべしニ面おもてしてろの幕カケ五いつごを一いつ聯れんねまたろの幕カケ六ろくを一ひとつ聯れんね
 ろの第六どくごの幕カケを幕カケ屋やの前まへに摺すむべし又またろの一聯いつれんの幕カケの邊へもあ
 りちろの聯絡處れんごくじよの端はしに繒ぬい五十いつじゆを付け又他の一聯いつれんの幕カケの聯絡處れんごくじよ
 も繒ぬい五十いつじゆを付つべしニ面おもてして金の銀ぎん五十いつじゆを作りろの繒ぬいを繒ぬいにあけ
 てろの幕カケを聯れんねわはせて一ひとつとみそべしニろの天幕てんかの幕カケの餘あまれる
 遺餘いじよすなりちろの餘あまれる半幕はんかをバ幕カケ屋やの後のちに垂たるべしニ天幕てんか
 の幕カケの餘あまれる者は此旁こゝに一キユピト彼旁かたに一キユピトあり之を
 幕カケ屋やの兩傍りやう此方こゝ彼方かたに垂たるべし蓋おほふべし汝キナ赤アカく染ぞたる牡山まけ
 羊ヒツジの皮かわをもて幕カケ屋やの蓋おほをつくりろの上うへに權けんの皮かわの蓋おほをはどみす
 べしニ汝キナ合あ獄ごく木きをもて幕カケ屋やのために豎たた板いたを造つくるべしニ一枚ひとひの板いた

の長ハ十キユビト一枚の板の濶ハ一キユビト半あるベシ。此の板を
 どハ二の桿をつくりて彼と此と交指あめよ幕屋の板ハ皆斯の
 ごとく爲べシ。汝幕屋のためハ板を造るベシ。即ち南向の方のた
 めハ板二十枚を作るベシ。而してその二十枚の板の下ハ銀の座
 四十を造るベシ。即ち此板の下ハその二の桿のためハ二の座あ
 らハめ。彼板の下ハその二の北の方のためハ二の座二十枚を作るベ
 幕屋の他の方す。其の北の方のためハ二の座二十枚を作るベ
 し。而して其の銀の座四十を作り。此板の下ハ二の座。彼板の
 下ハ二の座。其の西の方のためハ二の座。彼板の下ハ二の座。其の
 めに板六枚を造るベシ。又幕屋の後に兩ハ開け。ためハ板二枚を
 作るベシ。其の二枚の下ハ相合せ。めその頂まで一に連ら
 去むべシ。一箇の銀ハ於て然り。その二枚ともハ是の如くあるベシ。
 其等ハ二の隅のためハ設くる者あり。其の板ハ合て八枚。その銀

の座ハ十六座。此板ハ二の座。彼板にも二座。其の西の方のためハ五木を設くベ
 合歡木をもて横木を作り。幕屋の此方の板のためハ五木を設くベ
 し。また幕屋の彼方の板のためハ横木五木を設け。幕屋の後す。其
 のちその西の方の板のためハ横木五木を設くベシ。板の真中に
 ある中間の横木を一端より端まで通ら。去むべシ。而してその板
 ハ金を着せ。金をもて之がためハ銀を作りて。横木をみれハ貫き。又
 其の横木ハ金を着せ。其の山ハて。其の糸ハ。其の麻ハ。其の
 ふ。また其の幕屋を建べし。汝また青紫紅の線。其の麻ハ。其の
 をもて幕を作り。巧ハケルヒムをその上ハ織い。だそ。其の面して
 金を着たる。四木の合歡木の柱の上ハ之を掛べし。その釣ハ金。其
 其の柱ハ四の銀の座の上ハ置べし。汝その幕を銀の下ハ掛け。其
 處ハその幕の中に律法の櫃を藏むべし。その幕をな。其の汝のた
 めハ聖所。至聖所を分たん。汝至聖所にある律法の櫃の上ハ願

罪所を置べし罪所を置べし而してろの幕の外幕の外を置置ふ幕屋幕屋の南の方南の方を燈燈臺を置て案案を對對はまひべし案案は北の方北の方を置べし又青紫紅の線青紫紅の線をよび麻麻の捩糸捩糸をもて帳帳を織織りて幕屋幕屋の入口入口を掛掛べし又ろの帳帳のため合歡木合歡木をもて柱柱五木五木を造りてふれ金を着せろの鈎鈎を金金をそべし又ろの柱柱のため合歡木合歡木をもて五箇五箇の座座を鑄鑄べし

第廿七章六節 汝合歡木合歡木をもて長五キユピト洞洞五キユピトの壇壇を作作るべしろの壇壇は四角四角ろの高高は三キユピトあるべしろの四隅四隅の上上ふ其の角角を作りてろの角角を其より出出あめろの壇壇は銅銅を着着そべし又友友を受受る雷雷と火火錐錐と鉢鉢と肉肉又又火鼎火鼎を作作るべし壇壇の器器は皆銅皆銅をもて之之を作作るべし汝壇壇のため合歡木合歡木をもて金網金網を作り

ろの網網の上上ろの四隅四隅を銅銅の環環を四箇四箇作作るべし而してろの網網を壇壇の中間中間の邊邊の下下を置置て之之を壇壇の半半を達達せまひべし又壇壇のため合歡木合歡木を作作るべし即ち合歡木合歡木をもて柱柱を造り銅銅をふれ合歡木合歡木をもて

べし七ろの柱柱を環環貫貫きろの柱柱を壇壇の兩傍兩傍をあらまめて之之を昇昇べし壇壇は汝板汝板をもて之之を空空に造り汝汝の山山を示されしごとく

あみれを造るべし汝また幕屋幕屋の庭庭をつくるべし南南に向向ひては庭庭のため南南の方方を長百キユピトの細布細布の幕幕を設けてろの一方一方を覆覆べし十ろの二十の柱柱あよびろの二十の座座は銅銅ふし其柱其柱の鈎鈎あよびろの桁桁は銀銀をそべし又北北の方方をあたりて長百キユピトの幕幕をろの横横に設くべしろの二十の柱柱とろの柱柱の二十の座座は銅銅あま柱あま柱の鈎鈎とろの桁桁は銀銀をそべし庭庭の横横をあちろの西西の方方には五十キユピトの幕幕を設くべしろの柱柱は十ろの座座も十また

東東に向向ひては庭庭の東東の方方の洞洞は五十キユピトにすべし而して此此の旁旁に十五キユピトの幕幕を設くべしろの柱柱は三ろの座座も三また彼彼の旁旁も十五キユピトの幕幕を設くべしろの柱柱は三ろの座座も三また

三美庭三美庭の門門のため合歡木合歡木を青紫紅青紫紅の線線あよび麻麻の捩糸捩糸をもて織織りし

たる二十キユヒトの轆もろを設くべし。ろの柱はしらは四ろの座くらも四ろ庭にわの四周まわりのの柱はしらは皆銀ぎんの桁たてをもて續つけろ。の銜かぎを銀ぎんにし。ろの座くらを銅あがねおそべし。大庭おほいなるにわの縦たては百キユヒト。ろの横よこは五十キユヒト。宛あやうろの高たかは五キユヒト。麻あしの撚ね糸いとをもてつくり。ろの座くらを銅あがねおそべし。大庭おほいなるにわの諸もろもろの器具うつぐ並ならに。ろの釘くわおよび庭にわに釘くわは銅あがねをもて作るべし。汝おん又またイスラエルイスラエルれ子孫こゝろに命いのちを擡たげ。橄欖えんぼんを搗きて取とる。清きよき油あぶらを燈火あかりのため。汝おん持もきたら。まめて。絶たえず。燈火あかりをとも。そべし。三集會さんしゅうかいの幕屋まくやを於おて。律法りつぽうの前まへある幕まくの外とほ。アロンアロンどろの子こ等ら。晚ゆふより朝あさまで。エホバエホバの前まへある。燈火あかりを整ととのふべし。是こゝろはイスラエルイスラエルの子孫こゝろ。世々よからたえず守まもるべき定例さだめなり。

第二十八節

汝おんイスラエルイスラエルの子孫こゝろの中なかより。汝おん兄弟あひだアロンアロンどろの子こ等ら。す。あ。り。ち。アロンアロンどろの子こ。ナダブナダブ、アビウアビウ、エレアザルエレアザル、イタマルイタマルを。汝おん至いたら。ま。めて。彼かれを。ま。て。我われふ。む。ひ。ひ。て。祭司まつりの職つとめを。あ。さ。ま。ひ。べ。

し。汝おんまた。汝おん兄弟あひだアロンアロンのため。お。聖衣せいぎを。製つくり。て。彼かれの。身み。お。顯あらわ。榮さか光あかり。あ。ら。ま。ひ。べ。し。汝おん凡たゞて。心こゝろ。お。智ち慧えい。あ。る。者もの。を。あ。り。ち。我われが。智ち慧えいの。靈たまを。充みし。お。きた。る。者もの。等ら。お。語かたり。て。アロンアロンの。衣服いふくを。製つくら。め。之これを。用もちて。アロンアロンを。聖別せいべつ。て。我われお。祭司まつりの。職つとめを。あ。さ。ま。ひ。べ。し。お。彼かれ等らが。製つくる。べ。き。衣服いふく。之これを。あ。り。即すなはち。胸牌むねたまご。エホバエホバ、明衣あきぎ、間格まがらぎの。裏衣うらぎ、頭帽あたまぼうし。および。帶おび、彼かれ等らの。兄弟あひだアロンアロンどろの。子こ等らのため。お。聖衣せいぎを。つ。く。り。て。彼かれを。ま。て。祭司まつりの。職つとめを。我われふ。む。ひ。ひ。て。な。を。こ。と。と。え。せ。ま。ひ。べ。し。即すなはち。彼かれ等らの。金かね、青あお、紫むらさき、紅べにの。糸いと。および。麻あしの。撚ね糸いと。を。も。て。巧たくまお。エホバエホバを。織おひ。そ。べ。し。エホバエホバには。二ふたの。肩帶かたおびを。は。ど。み。し。ろの。兩ふたの。端はしを。連つね。て。之これを。合あを。べ。し。エホバエホバの。上うへ。お。あ。り。て。これ。を。束たばぬ。る。こ。ろの。帶おび。は。ろの。物もの。同おなじ。し。て。エホバエホバの。製つくれ。こ。と。く。あ。す。べ。し。即すなはち。金かね、青あお、紫むらさき、紅べにの。糸いと。および。麻あしの。撚ね糸いと。を。も。て。み。れ。を。作つくる。べ。し。汝おん二箇ふたつの。葱ねぎ。疳かみ。を。ど。り。て。ろの。上うへ。お。イスラエルイスラエルの。

子等の名を銷つくべし、即ち彼等の誕生おまたむひてろの名六を一の玉を銷りろの遺餘の名六を外の玉を銷べし、玉を彫刻する人の印を刻むごとくに汝イヌラエルの子等の名をろの玉を二の玉を銷つけろの玉を金の槽に嵌べし、さみの二の玉をエボアの肩帯の上につけてイヌラエルの子等の記念の玉とならまひべし、即ちアロン、エホバの前にあつて彼等の名をろの兩の肩帯に記念とあらまひべし、汝金の槽を作るべし、而して純金を組て細のとき二箇の鍵を作りろの細る鍵をろの槽あつくべし、汝また審判の胸牌を巧く織なし、エボアの製のごとくに之をつくるべし、即ち金青紫、紅の線および麻の撚糸をもてこれを製るべし、是は四角ふして二重なるべく其長は半キユピトロの潤も半キユピトなるべし、汝またろの中に玉を嵌て玉を四行おすべし、即ち赤玉、黃玉、瑪瑙の一行と第一行とすべし、第二行は紅玉、青玉、金剛石、

第三行は深紅玉、白瑪瑙、紫玉、第四行は黃綠玉、葱碧、碧玉、凡て金の槽の中ふれを嵌べし、ろの玉はイヌラエルの子等の名に循ひろの名のごとくおこれを十二おすべし、而してろの十二の支派の各々の名は印を刻むごとくおふれを銷つくべし、汝純金を細のごとくに組たる鍵を胸牌の上お付くべし、また胸牌の上お金の環二箇を作り、胸牌の兩の端おろの二箇の環をつけ、言ハ金の紐二條を胸牌の端の二箇の環おつづくべし、而してろの二條の紐の兩の端を二箇の槽に結び、エボアの肩帯の上おつけてろの前にあらまひべし、又二箇の金の環をつくりて之を胸牌の兩の端につくべし、即ちろのエボアお對ふところの内の邊にこきをつくべし、汝また金の環二箇を造りて、みきをエボアの兩傍の下の方おつけろの前の方にてろの聯接る處に對ひて、エボアの帯の上におあらまひべし、胸牌の青紐をもてろの環によりて之をエボアの環に結

ひつけエホアの帯の上にあらしむべし然せば胸牌エホアを離る
よこど無るべしエアロン聖所に入る時いろは胸あある審判の胸
牌にイストラエルの子等の名を帯てこれをろの心ば上に置きエホ
アの前に恒に記念どあらまむべし手汝審判の胸牌にウリムと
シムをいさアロンを帯てろれエホバは前に入る時にこきをろの
心れ上に置しむべしアロンのエホバは常にイストラエルは子
孫は審判を帯てろれ心れ上に置べしニエホアに属する明衣の凡
てこきを青く作るべし三頭をいろは孔いろの真中に設くべし又
ろの孔の周圍に織物の縁を付けて鍔の領盤のごとくになして
之を縫びざらまむべし三ろの帯に青紫紅の糸をもて石欄を
けくりてろの帯の周圍にけ又四周に金の鈴をろの間々にけ
べし三即ち明衣の帯に金の鈴に石榴又金の鈴に石榴どろの周
圍にけくべし三アロン奉事をあす時あみれを着べし彼ら聖處あ

いりてエホバの前あ至る時また出きたる時あはろの鈴の音聞ゆ
べし斯せば彼死るふどあらじ汝純金をもて一枚の前板を作り
印を刻ぐごとくあろの上あエホバに聖と錯けけ之を青細にけ
けて頭帽の上ああらまむべし即ち頭帽の前の方あみれをけくべ
し三是はアロンの額ああるべしアロンはイストラエルの子孫が献
ぐるとみろの聖物するちろの献ぐる諸の聖き供物の上あある
どみろの罪を償べしこの板を常あアロンの額ああらまむべし
是エホバの前あ其等の受納られんためあり汝麻糸をもて裏衣
を間格お織り麻糸をもて頭帽を製りまた帯を織工お織あそべし
早汝またアロンの子等のためあ裏衣を製り彼らのためお帯を製
り彼らのため頭巾を製りてろの身に顯榮と榮光あらまむべし
思而して汝みれを汝の兄弟アロンおよび彼らともあるろの子等
お若せ膏を彼等に灌ぎみれを立てるれを聖別てみれをして祭司

比職を我にみさまひべし。又ウレらのため、ウの陰所を蔽ふ麻の幕を裂り、腰より脚に達らまひべし。アロンとウの子等は、集會の幕屋に入る時、又は祭壇に近づきて、聖所に職事をなす時は、みれを著べし。斯せを愆をうひりて、死るゐど、るらん。是は彼とよび彼の後の子孫の永く守るべき例あり。

汝、ウレらを聖別て、彼らをて、我にむらひて、祭司の職をなさまひる。ウは斯これ、ウ爲べし。即ち若き牡牛と二の全き牡山羊を取り、無酵パン、油を和たる無酵菓子とよび油を塗たる無酵煎餅を取り、是等は麥粉をもて製るべし。而して、みれを一箇の筐にいれ、牡牛れよび二の牡山羊とよもみれをウの筐のまよあ持きたるべし。汝またアロンとウの子等を、集會の幕屋の口お携きたりて、水をもて、ウレらを洗ひ、清め、衣服をとりて、裏衣、エゴアに屬する、明衣、エゴア、ねよび胸牌をアロンに著せ、エゴアの帯と之

お帯を、ひべし。而して、ウの首、お頭帽を、むひらせ、ウの頭帽の上、おの聖金板を、戴、まめ、油を取て、みれを、彼の首、お傾け、澁ぐべし。又、ウレの子等を、携來りて、之、お裏衣を、著せ、之、お帯を、帶、まめ、頭巾を、みれ、おむら、すべし。即ちアロンとウの子等、お斯、なすべし。祭司の職は、ウレら、お歸、す、永く、みれを、例、となすべし。汝、アロンとウの子等を、立、べし。汝、集會の幕屋の前、お牡牛を、ひき、來ら、まひ、べし。而して、アロンとウの子等、ウの牡牛の頭、お手を、扱、べし。さ、かくし、て、汝、集會の幕屋の口、おて、エホバの前、おウの牡牛を、宰、す、べし。汝、ウの牡牛の血を、とり、汝の指をもて、これを、壇の角、お塗、り、ウの血を、を、こ、と、く、壇の下、お澁、ぐ、べし。汝、また、ウの臙膂を、裹、む、と、ろの諸の臙膂の上の網膜、れよび二の腎と、ウの上の臙膂を取て、みれを、壇の上、お燂、べし。是は、罪祭、あり。汝、ウの牡山羊、一頭を取るべし。而

してアロンどのの子等のの牡山羊の上お手を按べし其汝の牡山羊を宰しその血をとりてそれを壇の上の周圍に澆ぐべし汝られ牡山羊を切割きその臍胎どのの足を洗ひて之をその肉の塊どのの頭れ上おねくべし汝の牡山羊を壇の上お恐く焼べし是ニホバおたてまつる燔祭なり是ハ馨しき香おしてニホバおたてまつる火祭なり汝また今一の牡山羊をどるべし而してアロンのどのの子等のの牡山羊の頭の上お手を按べし其汝をなれらるの牡山羊を殺しその血をとりてそれをアロンの右の耳は端れよびらの子等の右の耳の端おつけ又その右の手の大指と右の足の指指おつけその血を壇の周圍お澆ぐべし又壇の上の血をとり澆油をとりて之をアロンどのの衣服およびらの子等のの衣服お澆ぐべし其彼どのの衣服およびらの子等のの衣服清潔なるべし汝の牡山羊の脂と脂の尾およびらの臍胎

を齧る脂肪の上の網膜二箇の腎どのの上の脂および右の臍を取べし是ハ任脈の牡山羊なり汝またニホバの前おある無脂パンの箇の中よりパン一個と油ぬりたる菓子一箇と煎餅一個を取べし汝みれちを恐くアロンの手どのの子等の手お授けみれを搗てニホバお搗祭となせべし而して汝みれちを彼等の手より取て壇の上おて燔祭おくりへて焼くべし是ニホバの前お馨しき香とあるべし是するはちニホバおたてまつる火祭あり汝またアロンの任脈の牡山羊の胸を取てみせをニホバの前お搗て搗祭とあすべし是汝の受るとみろの分なり汝の搗とみろの搗祭の助の胸およびらの舉るとみろの舉祭の物の臍すなりちアロンどのの子等の任脈の牡山羊の胸と臍を聖別つべし是ハアロンどのの子等に歸すべしイストラエルの子孫お剛恩祭の犧牲の中よりどのの例を守るべきなり是ハイストラエルの子孫お剛恩祭の犧牲の中よりどのの

舉祭をしてエホバの聖衣に其
 後の子孫を歸すべし子孫これを着て膏をらよがれ職を任せらる
 べきありアロンの子孫の中彼ありて祭司となり集會の幕
 屋をいりて聖所に職をある者先七日の間これを着べし三日任
 職の牡山羊を取り聖所にてその肉を煮べしアロンの子等
 の集會の幕屋の戸口においてその牡山羊の肉と筐の中のパンを
 食ふべし罪を贖ふ物するにち彼らを立て彼らを聖別する
 とその物を彼らの食ふべし餘の人は食ふべからず其は聖物な
 れをなり言もし任職の肉あるにパン且まで遣りをらその遺
 者は火をもてこを焼べし是に聖けれを食ふべからず汝わが
 凡て汝を命ずるおどくアロンの子等お斯るすべし即ちう
 きらのために七日のあひだ任職の禮をとおるふべし汝日々に
 罪祭の牡牛一頭をさよげて贖をなすべし又壇のために贖罪をな

してみれを清めみそを膏を灌ぎみれを聖別べし汝七日のあひ
 だ壇のためお腹をあして之を聖別め至聖き壇とならまひべし凡
 て壇に捫る者の聖なるべし汝壇の上をさよべき者はな
 り即ち一歳の羔二を日々絶す献ぐべし一歳の羔の朝にみそを献
 げ一の羔の夕にみそを献ぐべし一歳の羔の麥粉十分の一を搗た
 る油一ヒンの四分の一を和たるを添へ又灌祭として酒一ヒンの四
 分の一を添べし今一の羔羊の夕あみそを献げ朝とあなじき素
 祭と灌祭をこきと共あさよ馨しき香どならまめエホバの火祭
 たらまむべし是すなりち汝ら代を絶す集會の幕屋の門口あ
 てエホバの前お献ぐべき燔祭なり我其處おて汝等お會ひ汝と語
 ふべし其處おて我イスラエルの子孫に會ん幕屋のわが榮光に
 よりて聖なるべし我集會の幕屋と祭壇を聖めん亦アロンど
 の子等を聖めて我に祭司の職をあるまむべし我イスラエルの

子孫の中に居て彼らの神とならん。彼等の我を彼らの神エホバにして彼等の中に住んで彼等をエロブトの地より導き出せし者なるふどを。知ん我のらさらの神エホバなり。

第三十一節

汝香を焚く壇を造るべし。即ち合歡木をもてこれを造るべし。その長の一キエヒトその寛も一キエヒトあして四角ならしめ其高の三キエヒトあし其角の其より出まむべし。而してその上の四傍の角ども純金を着せるの周圍金の線を作るべし。汝またその兩面に金の線の下に金の環二箇を之が衣めに作るべし。即ちその兩傍にこれを作るべし。是するのちこれを鼻とてその角を貫く所あり。その角の合歡木をもてこれを作りて之に金を着せし。汝これを律法の櫃の傍ある幕の前に置て律法の上ある贖罪所に對はしむべし。其處のわが汝に會ふ處なり。アロン朝おどはるの上に弱しき香を焚べし。彼燈火を整ふる時は

その上に香を焚べきあり。アロン夕に燈火を燃す時、その上に香を焚べし。是香のエホバの前に汝等が代を絶すべからざる者あり。汝等その上に異なる香を焚べら。燔祭をも素祭をも獻ぐべから。又その上に灌祭の酒を灌ぐべ。阿ロン年に一回贖罪の罪祭の血をもてその壇の角のために贖をさすべし。汝等代々年に一度是がために贖をさすべし。是のエホバに最も聖き者たるあり。エホバ、モーセに告て言たまはく。汝がイスラエル子孫の數を數へ。去らるにあたりて彼等の各人の數へらる。時にたら。生命の願をエホバにたてまつるべし。是の數ふる時にあたりて彼等の中に災害のあらざらんためあり。凡て數へらる者の中にいる者の聖所のシケルに遊ひて半シケルを出すべし。シケルは二十ケラなり。即ち半シケルをエホバあたてまつるべし。凡て數へらるる者の中にいる者即ち二十歳以上の者のエホバ

小献納物をなすべし。汝られ生命を賜ふためにエホバに献納物を
 をふそに。あたりての富者も半シケルより多く出すべからず。貧者
 も其より少く出すべからず。汝イスラエルの子孫より賜ひの金を
 取てこれを幕屋の用に供ふべし。是のエホバの前にイスラエルは
 子孫の記念となりて。汝らの生命を賜ふべし。エホバ、モーセに告
 て言たまひく。汝また銅をもて洗盤を切くり。その臺をも銅にあ
 して洗ふことのために。俱へ之を集會の幕屋と壇との間を置て。そ
 の中水水をいれおくべし。エホバの子等のこれに就て。手ど
 足を洗ふべし。彼等の集會の幕屋に入る時。水をもて洗ふこと
 を爲て。死をまぬかるべし。亦壇のちうづきて。その職をなし。火祭を
 エホバの前。焚く時。も然すべし。即ち斯るの手足を洗ひて。死を
 免ぐるべし。是の彼等の子孫の代々。常守るべき例あり。エホ
 バまたモーセに言たまひける。汝また重立たる香物を取れ。即

ち淨液藥五百シケル。香しき肉桂の半二百五十シケル。香しき蒿
 苗二百五十シケル。桂枝五百シケルを聖所のシケルにおさひて。取
 り。又橄欖の油一ヒンを取べし。汝これをもて。聖灌膏を製べし。そ
 ろち。新物を製る法を。あたおひて。香膏を製るべし。是の聖灌膏た
 るあり。汝ふれを集會の幕屋と律法の櫃。お塗り。毛案。そのもの
 もろの器具。臺。そのものろの器具。および。香壇。並に。燔祭の
 壇。そのものろの器具。および。洗盤。その臺。お塗り。汝是
 等を聖めて。至聖ら。まじべし。凡て。みれ。お摺る者。聖く。あらん。汝
 アロン。その子。等。お膏を。ろぎて。之を。立て。彼らを。まて。我。祭司
 の職を。あさ。まじべし。汝。イスラエルの。子孫。お告て。いふべし。是の。汝
 らの。代々。我のため。お用ふ。べき。聖灌膏。あり。是の。人の。身に。灌ぐ。べ
 ら。す。汝等。また。此量。をもて。是の。等。き物。を。製る。べ。から。す。是は。聖し
 汝等。み。る。を。聖物。と。あ。す。べし。凡て。之。お。等。き物。を。製る。者。凡て。これ

を餘人につくる者はろの民の中より絶るべし言エホバ、モーセに
 言たまひて汝ナタフ、レケレナ、ヘルベナの香物を取りろの香物を
 淨き乳香に和あひすべしろは量り各等くらあむべきあり汝も
 香を以て香を製るべし即ち薫物を製る法もあたがひてみをも
 て薫物を製り鹽をこきあはへ深く且聖らあむべし汝またろ
 の幾分を細く搗て我が汝あ會ふどころある集會の幕屋の中あ
 る律法の前あみきを供ふべし是の汝等あひて最も聖き者なり
 汝が製るとみろの香の汝等ろの量をもてこれを自己のためあ
 製るべあらず是の汝あひてエホバのために聖き者たるあり
 凡て是に均き者を製りてこを喚ぐ者ろの民の中より絶るべ
 し

第三十三節

エホバ、モーセに告て言たまひけるに我エマの支派
 のホルの子あるウリの子ベザレルを名指て召しニ科の鹽をみ

ふ充して智慧と了知と智識と諸の類の工も長あめ奇巧を盡し
 て金、銀、および銅の作をみすことを得せあめエ玉を切り嵌め木に
 彫刻みて諸の類の工をみすみと得せあむハ祝よ我またダンの
 支派のアヒサマクの子アホリアブを與へて彼とよあむ凡
 て心あ智ある者あ我智慧を授け彼等をあて我が汝あ命する所
 事を盡くあさあむべし七即ち集會の幕屋、律法の櫃ろの上の贖罪
 所、幕屋の諸の器具、案ならあろの器具、純金の燈臺どろの諸の
 器具、および香壇、燔祭の壇どろの諸の器具、洗盤どろの臺、+ 供職
 の衣服、祭司の職をなす時に用ふるアロンの聖衣およびろの子等
 の衣服、および洗濯盆ならあに聖所の馨しき香是等を我が凡て汝
 あ命せしごとくあ彼等製造べきありエホバ、モーセあ告て言た
 まひけるに汝イストラエルの子孫あ告て言べし汝等ああらず吾
 安息日を守るべし是は我と汝等の間の代々の徴あして汝等あ我

の汝等を聖らちあむるエホバなるを知らむる爲の者なれども
 吉即ち汝等安息日を守るべし是の汝等お聖日なきをなり凡て之
 を讀そ者の必ず殺さるべし凡てその日お働作をなす人はその民
 の中より絶るべし第六日の間業をなすべし第七日の大安息あし
 てエホバお聖らち凡て安息日お働作をなす者の必ず殺さるべし
 其斯イスラエルの子孫の安息日を守り代り安息日を祝ふべし是
 永遠の契約あり是の永久お我とイスラエルの子孫の間の徴た
 るあり其のエホバ六日の中お天地をつくりて七日お休みて安息
 に入たまひたれどもありエホバレナイ山おてモーセお語るも
 を終たまひし時律法の板二枚をモーセお賜ふ是の石の板おして
 刻む手をもて書したまひし者なり
 第三十二節 抜お民モーセお山を下るここの遇きを見民集りてア
 ロンの詩に至り之に言けるお起よ汝わをらを導く神を我等のた

めに作り其の我らをエシブトは國より導き上り去彼モーセ其人
 の如何になりたる如き心をなりニアロンをさらけ言ける汝等
 の妻と息子息女等の耳にある金の環をどりはづれて我に持きた
 るとエシブにわいて民みなその耳ある金の環をどりてづれてア
 ロンの許お持來りけきとアロンも彼等の手より取り鎚の鑿
 をもて之の形を造りて鎖を鑄なしたるに人々言ふイスラエルよ
 是は汝をエシブトの國より導きのばりし汝の神なりとエシブ
 みをを見てその前に壇を築き而してアロン宣告て明日のエホバ
 の祭禮なりと言ふ是はあいて人衆明朝早く起いで燔祭を獻
 げ酒思祭を供ふ民坐して飲食し起て獻るエホバモーセお言た
 まひける汝往て下きよ汝がエシブトの地より導き出せし汝の
 民と惡き事を行ふあり彼等は早くも我を彼等に命せし道を離
 き己のためお鎖を鑄なしてそのを拜み其に犠牲を獻けて言ふイ

スラエルよ是は汝をエロプトの地より導きのほりし汝の神ありと
 エホバまたモーセあ言たまひけるは我みの民を觀たり視よ是
 と項の強き民あり + 然を我を阻るるけり我りさらふ向ひて怒を
 發して彼等を滅し盡さん而して汝を去て大ある國をふるまはむべ
 し + モーセの神エホバの面を和めて言けるはエホバよ汝とど
 て彼の大ある權能と強き手をもてエロプトに國より導きいだ
 したまひし汝の民にむりひて怒を發したまふや + 何ぞエロプト
 人を去て斯言ふべけんや曰く彼に禍をくだして彼等を山に殺
 し地の面より滅し盡さんとて彼等を導き出せしありと然を汝の
 烈き怒を息め汝の民にみの神を下さんとせしを思ひ直したまへ
 主汝の僕アブラハム、イサク、イサラエルを憶ひたまへ汝は自己さ
 して彼等に誓ひて我天の星のおどくに汝等の子孫を増し又ど
 言ふところの此地をふとく汝等の子孫にあたへて永くみこ

を有たまめんと彼等に言たまへり + 主エホバ是に於いてその
 民に禍を降んとせしを思ひ直したまへり + モーセするはち身を
 轉て山より下れり + 彼の律法の二枚の板の手にあり此板の
 の両面に文字あり即ち此面にも彼面にも文字あり + 此板の神の
 作ありまた文字の神の書にして板に彫つてあり + ヨシヤ民
 の呼ぶる聲を聞てモーセにむらひ營中に戰爭の聲すと言けしを
 主モーセ言ふ是の勝鬨の聲にあらす + 又敗北の號呼聲にもあらす
 我が聞どみろのもの + 彼の歌を唱ふ聲なりと + 斯てモーセ營に近づく
 に及びて狼と舞跳を見たを怒を發してその手より板を擲
 ちてを山の下に碎けり + 而して彼等が作りし狼をとりてこれ
 を火に焼き碎きて粉となしてこれを水に撒きイサラエルの子孫
 に之をのたまひ + モーセ、アロンに言けるは此民汝に何をなして
 か汝のれらに大なる罪を犯させしや + ミアロン言けるは吾主よ怒

を發したまふ勿き此民の惡なるの汝の知とみろなり三彼等われ
 と言けらく我らを導く神をわきらのためお作せ其の我らをエジ
 プトの國より導き上りて去彼モーセ其人の如何なりと知る知され
 るありと言是をあいて我凡て金をもつ者ののれをとりてせせ
 彼等お言けきを則ちるれを我に與へたり我みれを火お投たれを
 此輩出きたれりと言モーセ民を祝するに三彼等お事をなすアロン彼
 等をして緹肆お事をあさめたれを彼等のの敵の中お嘲笑と
 るれるなり云按にモーセ營の門お立ち凡てエホバお歸する者の
 我に來れと言けられたレビの子孫みる集りてりれお至るモーセ
 するにち彼等お言けるにイスラエルの神エホバ斯言たまふ汝等
 おのく劍を懐たへて門より門と營の中を彼處此處に行めぐり
 て各人の兄弟を殺し各人の伴侶を殺し各人の鄰人を殺す
 べしと言レビの子孫するにちモーセの言のおどくお爲たまはる

の日民凡三千人殺されたり是は於てモーセ言ふ汝等おの
 ろの子をもろの兄弟をも顧す去て今日エホバお身を獻げ而して
 今日福社を得よ明日モーセ民お言けるに汝等の大ある罪を犯
 せり今我エホバの許お上りゆるんとす我あんちらの罪を贖ふを
 得ることもあらん三モーセするにちエホバに歸りて言けるに嗚
 呼この民の罪の大ある罪なり彼等は自己のためお金の神を作さ
 り三然とあるなはと彼等の罪を赦したまへ然らずを願くは汝の書ま
 りしたまへる書の中より吾名を抹さりたまへ三エホバモーセお
 言たまひけるは凡てわれに罪を犯す者を心我これをわび書より
 抹さりん言然と今往て民を我お汝につけたる所に導けよ吾使者
 汝お先だちて往ん但しわび罰をおこさるふ口には我らきらの罪を
 罰せん三エホバするにち民を辱たたまへり是ははるれら贖を造りた
 るお因る即ちアロンこきを造りたまはり

下の國より導き上りて我民此を起いでて我をアブラハム、イサク、ヤ
 コブに誓ひて之を汝の子孫と與へんと言ししもの地に上るべし
 我一の僕を遣して汝を先だまめん我カナン人、アモリ人、ヘテ人、
 ペリシ人、ヒビ人、エブス人を逐はらひてなんぢらをして乳と蜜の
 流るる地をいたらしめし我の汝の中をりて其の上らじ汝
 は頂の強き民なきを恐く我途て汝を滅すにいたらん我民の
 の惡き告を聞て憂へ一人も汝の妝飾を身に作る者なしエホ
 パ、モーセに言たまひけるにイスラエルの子孫に言へ汝等を取の
 強き民あり我もし一刻も汝の中にありて往て汝を滅すにいたら
 ん然も今汝らの妝飾を身より取すて自然せば我汝を爲べきいと
 を知んども是をもてイスラエルの子孫ホレブ山より以來はるの
 妝飾を取すて居ぬセモーセ幕屋をとりてふきを營の外に張て

營と遙に離きまめ之を集會の幕屋と名けたり凡てエホバに求む
 るみどのある者を出ゆきて營の外あるるの集會の幕屋にいたる
 ハモーセの出で幕屋にいたる時には民みな起あがりてモーセガ
 幕屋に在るを各々々の天幕の門口に立てかきを見るエモーセ
 幕屋のいとを雲の柱くだりて幕屋の門口に立つ而してエホバ、モ
 ーセどもをいひたまふ民みな幕屋の門口に雲の柱の立つを見
 れを民みあきて各々々の天幕の門口にて拜をす人々の友
 に言談おどくにエホバモーセと面をあはせてものいひたまふモ
 ーセの天幕に歸りて各々の僕ある少者エムの子ヨシュアの
 幕屋を離きざりき我をモーセ、エホバに言けるに視たまへ汝は
 むの民を導き上きて我に言たまひるがら誰を我どもに遣した
 まふかを我に志らめたまはず汝りつて言たまひけらく我名を
 もて汝を知る汝のまた我前に恩を得たりと自然に我もし誠に汝

の目の前に思を得たらを願くは汝の道を我に示して我に汝を知
 るに我を去て汝の目の前に思を得せよと汝の民の汝
 の有るを念たまへ昔エホバ言たまひけるに我親汝と其にゆく
 べし我汝を去て安泰にあらめんまもいせエホバに言けるに汝
 もしみづら行たまひすを我等を此より上らめられたまふ勿きま
 我と汝の民と汝の目の前に思を得るゐどは如何にして知るべ
 きや是汝が我等とよも往たまひて我と汝の民とが地の諸の民
 と異なる者であるに由るにあらすやまエホバ、もいせに言たまひけ
 るに汝が言るゐの事をも我爲ん汝のわが目の前に思を得たまを
 あり我名をもて汝を知りたまもいせ願くは汝の榮光を我に示さ
 たまへと言けれたまエホバ言たまひく我とが諸の善を汝の前
 通らめエホバの名を汝の前に宣ん我の恵んとする者を恵み憐
 まんとする者を憐むあり又言たまはく汝はわが面を見ること

わたらず我を見て生る人あらざれをあり三面してエホバ言たま
 ひけるに視よ我の傍に一の處あり汝磐石の上に立べし三番榮光其
 處を過る時に我らんちを磐の穴にいれ我が過る時にわが手をも
 て汝を蔽はん三面してわが手を除る時に汝わが背後を見るべし
 吾面は見るべきにあらす

第三十四章 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

前のおどくに研て作れ汝が碎きし彼の前の板にありし言を我ら
 の板に書さん三時朝までに準備ををし朝の中にシナイ山に上り
 山の巔に於て吾前に立て三誰も汝とよもに上るべからず又誰も
 山の中に居べからず又その山の前にて羊や牛を牧ふべからず
 モーセすなわち石の板二枚を前のおどくお研て造り朝早く起て
 手に二枚の石の板をどりエホバの命じたまひしごとくにシナイ
 山にのぼりもけりエホバ雲の中にありて降り彼とよもに其處

に立ちてエホバの名を宣たまふ。エホバするに彼の前を過て
 宣たまはくエホバ、エホバ憐憫あり恩恵あり怒ることの遅く恩恵
 と眞實は大なる神。恩恵を千代までも施し、惡と罪とを赦す
 者又罰すべき者を必す赦すことをせず。父は罪を子に報い子の
 子に報いて三四代におよばす者。モーセ急ぎ地を躬を鞠めて拜
 し、我等の中おいてエホバよ我もし汝は目れ前に恩を得たらば願くは
 の惡と罪を赦し我等を汝の所有とあししたまへ。エホバ言たまふ
 視よ我契約をあす我未だ全地を行はれし事あらず何れ國民の中
 にも行はれし事あらざるどころの奇跡を汝の總昧の民の前に行
 ふべし。汝が住どころの國の民みるエホバの所行を見ん我が汝を
 もて爲どころの事怖るべき者あさむるに汝わが今日汝に命
 ずるところの事を守れ視よ我アモリ人、カナン人、ヘテ人、ペリシ人

ヒヒ人、エブス人を汝の前より逐はらふ。汝みづから慎め汝が往
 どころの國の居民と契約をむすぶべからず。恐くは汝の中におい
 て機檻とあることあらん。汝かへ切て彼等の祭壇を崩し、その偶
 像を毀ち、そのアセラ像を砕たふべし。言汝は他の神を拜むべ
 らず。其はエホバのの名を嫉妬と言て嫉妬神あるべからず。然
 汝らの地の居民と契約を結ぶべからず。恐くは彼等がその神々を
 慕ひて其と姦淫をおこさむ。ひらの神々に犠牲をささぐる時に汝を
 招きてその犠牲に就て食はさむる者あらん。又恐くは汝られら
 れ女子等を汝の息子等不妻すことありて彼等の女子等その神々
 を慕ひて姦淫を行ひ、汝の息子等をして彼等の神々を慕て姦淫を
 おこさむ。おこさむるにいたらん。汝おのれのために神々を誘ふすべ
 からず。汝無酵パンの節籠を守るべし。即ち我が汝に命ぜしごと
 くアヒバの月のその期におよびて七日の間無酵パンを食ふべ

し其の汝アヒブの月々エロブトより出たれをありま首生たる者
 は昔吾の所有あり亦汝の家畜の首出の牡ある者も牛羊どもに皆
 ありり但し驢馬の首出の羔羊をもて贖ふべし若し贖えずば
 の頭を折べし汝の息子の初子は皆贖ふべし我前に空手にて
 出るものあるべからず三六日の間汝節作をなせし第七日に休むべ
 し耕耘時にも取割時にも休むべし汝七週の節籠するなり
 の初穂の節籠を爲し又年の終に収穫の節籠をなせし三年に三
 回の汝の男子みな主キホバエストラエルの神れ前に出べし言我國々
 の民を汝の前より逐はらひて汝の境を廣くせん汝の年お三回の
 ばりて汝の神エホバのまへに出る時にい雖も汝の國を取んとす
 る者わらじ汝わが犠牲の血を有勝パンども供ふべからず
 又逾越の節の犠牲の明朝まで存しおくべからざるあり汝の土
 地の初穂の初を汝の神エホバの家お攝ふべし汝山羊羔をろの母

の乳にて養べからずモステエホバモ一セに言たまひけるは汝是
 等の言語を書まるせ我是等の言語をもて汝およびイストラエルと
 契約をむすべむあり我後エホバどもに四十日四十夜其處に
 居まら食物をも食す水をも飲ざりきエホバの契約の詞ある十
 二箇をの板の上に書したまへり○元モ一セの律法の板二枚を
 己の手お執てレナイ山より下り去らるの山より下り去時おモ一
 セはろの面の己ガエホバと言ひしにによりて光を覆つを如きりき
 事アロンおよびイストラエルの子孫モーセを見てろの面の皮の光
 を覆つを懼かきて彼お近づきしりしバ三モーセを呼り
 アラシおよび會衆の長等するなりモ一セの所に歸りたれをモ一
 セ彼等と言ふ三事ありて後イストラエルの子孫み近よりけれバ
 モ一セ、エホバガレナイ山にて己お告たまひし事等を盡くこれに
 論せりモ一セうらと語ふことを終て覆面帽をろの面にあて

集會の幕屋どろの諸の用に供へ又聖衣のため供へたり三即ち
 凡て心より願ふ者の男女どもに環釦耳環指環頸玉諸の金の物を
 搗へいたさり又凡て金の獻納物をエホバに爲そ者も然せり凡
 て青紫紅の線および麻絲山羊の毛赤染の牡羊の皮羆の皮ある者は
 是を搗へいたり凡て銀および銅の獻納物をあす者のあまを搗へ
 きたりてエホバに獻げ又物を造るの用ふべき合歡木ある者の其
 を搗へいたさりまた凡て心お智慧ある婦女等いろの手をもて
 紡ぐるををるしるの紡きたる者ある青紫紅の線および麻絲を
 搗へきたり又凡て智慧ありて心お感したる婦人の山羊の毛を紡
 げり又長たる者ども葱珣およびエホバと胸牌に嵌べき玉を
 搗へいたり又燈火と灌膏と馨しき香どに用ふる香料と油を搗へ
 いたさり又斯イオラエルの子孫悦んでエホバに獻納物をあせり
 即ちエホバのモーセに藉て爲せと命じたまひし諸の工事をあさ

しむるために物を搗へきたらんと心より願ふどころの男女の皆
 是のあどくにふしたり○三モーセ、イストラエルの子孫に言ふ、曠
 エホバ、エダの支派のホルの子あるウリの子、ヤザレルを名指て召
 たまひ、神の靈をこゝに充して智慧と了知と知識と諸の類の工
 事に長たぬ奇巧を盡して金、銀および銅の作をあすことを得せ
 まめ玉を切り嵌め木に彫刻みて諸の類の工をあすことを得せ
 しめ、彼の心を明らにして教ふることを得せ、あめたたまふ彼と
 川の支派のアヒサマタの子アホリアア俱に然り、又斯智慧の心を
 彼等に充して諸の類の工事をあすことを得せ、あめたたまふ即ち彫
 刻文織、および青紫、紅の線と麻絲と刺繡並に機織等、凡て諸の類
 れ工をあすことを得せ、あめ奇巧をあまに盡さ、あめたたまふ
 第三十章 一 倍、ヤザレルとアホリアアおよび凡て心の顯微き人、即
 ちエホバの智慧と了知をあたへて聖所の用お供ふるどころの諸

の工をなすことを知得せしめたまへる者等のエホバの凡て命じたまひし如くに事をなせしめたりしニモーセすなりちベザレド
 アホリアブおまひ凡て心の調敏き人するはちろの心おエホバが
 智慧をさづけられたまひし者凡ろ來りてろの工をなさんど心に望む
 どろの者を召よせたりニ彼等の聖所の用あるふふるところの
 工事をなさまむるためおイスラエルの子孫が推へきたりし諸の
 献納物をモーセの手より受どりしが民の尙また朝ごとお自意の
 献納物をモーセに持きたるは是に於て聖所の諸の工をなすども
 ろの智き人等みる者々ろの爲どろの工をやめて來りニモーセ
 お告て言けるは民餘りに多く持きたればエホバが爲せど命じた
 まひし工事をなすお用ふるお餘ありどカモーセするはち命を傳
 へて營中に宣布まめて云く男女どもに今よりの聖所お献納物を
 なすに及ばずど是をもて民は拙へきたることを止たりニ其はろ

の有どろの物すでに一切の工をなすに足て且餘あれありハ
 倍彼等の中心お智慧ありてろの工を爲るとろの者十の幕をも
 て幕屋を造りろの幕は麻の捻絲と青紫と紅と絲をもて巧にク
 ルヒムを織あて作れる者ありニろの幕は各々長二十八キユビ
 トろは幕の各々寛四キユビトろの幕はみる寸尺一ありニ面して
 ろは幕五箇を互に連ねあひせ又ろは幕五箇をたがひに連ねあひ
 せし一聯の幕れ邊においてろの連絡處の端お青色の襪を造り又
 他の一聯の幕の邊においてろの連絡處おみきを造りま一聯れ
 幕に襪五十をつくりまた他れ一聯れ幕の聯絡處の邊おも襪五十
 をつくどりろれ襪の彼ど此ど相對すま而じて金の鉤五十をけく
 りろの鉤をもてろれ幕を彼ど此ど相連ねたむ心一箇れ幕屋どあ
 る言又山羊の毛をもて幕をつくりて幕屋れ上の天幕どあせりろ
 の造りる幕の十一ありまろれ幕は各々長三十キユビトろれ幕は

のく寛四ヤニヒトおして十一の幕は寸尺同一ありまらば幕
 五を一幅お連ねざたらば幕六を一幅お連ねまらば幕の邊おい
 て連絡處お禰五十をのくり又次は一連は幕の邊お禰五十をつ
 くれりまらば銅は鉤五十をつくりてろて天幕をつらねおりせて一
 どみらしめ赤染の牡羊の皮をもてろて天幕の頂蓋をつくりて
 ろの上お繻の皮の蓋を設けたり○又合歡木をもて幕屋の豎板
 をつくきり三板の長は十ヤニヒト板の寛は一ヤニヒト半三一の
 板お二の樺ありて彼と此と交指ふ幕屋は板には皆おくのごどく
 造りおせり又幕屋はためお板を作きり即ち南お於り南の方お
 板二十枚言ろの二十枚の板の下お銀の座四十をつくり即ち此
 板の下おも二の座ありてろの二の樺を承け彼板の下おも二の座
 ありてろの二の樺を承く幕屋の他の方すなはちろの北の方の
 ためおも板二十枚を作り又ろは銀は座四十をつくり即ち此

板は下おも二の座あり彼板は下おも二の座あり又幕屋は後面
 するのちろは西ののために板六枚をのくり幕屋の後は兩隅のた
 めお板二枚宛をのくりろは二枚の下にて相合じろは頂まで
 一お連るれり一箇は環に於て然りろは二枚ともお是れおどし是
 等の二隅はためお設けたる者ありまらば板の八枚ありろは座は
 銀は座十六座あり各々は板は下お二の座あり又合歡木をもて
 横木を作れり即ち幕屋は此方の板はためお五木を設け幕屋は
 彼方の板のためお横木五木を設け幕屋の後するはちろは西の板
 のためお横木五木を設けたり又中間の横木をつくりて板の真
 中おおいて端より端まで通らしめ而してろの板お金を着せ金
 をもて之をためお銀をつくりて横木をさしお貫き又ろは横木お
 金を着たり又青紫紅の練および麻の撚練をもて幕をつくり
 巧おケルヒをろの上お織いだしまらばためお合歡木をもて

四本の柱をけりてこき金を着せたりとの鉤は金あり又銀を
もてこれびために座四を鑄たり是又青、紫、紅の絲よ麻の撚
絲をもて幕屋の入口に掛る帳を織なしえら五木柱とられ
とを造りとの柱は頭と桁を金を着せたり但し五座は銅あり
りき

第三十七節 ベザレ合歡木をもて櫃をつくりとの長は二キエビ
ト半、うの寛は一キエビト半、うの高は一キエビト半、而して純金
をもてるの内外を蔽ひての上の周圍を金の絲を造れり又金
の環四箇を鑄てとの四の足につけたり即ち此旁に二箇の輪、彼旁
に二箇の輪を付く又合歡木をもて柱を作りてふれ金を着せ
るの柱を櫃の旁の環あざしりて之をもて櫃をうくべらし
む又純金をもて脚所を造りとの長は二キエビト半、うの寛
は一キエビト半あり又金をもて二箇のケルヒムを作り即ち

純て打て之を贖罪所の兩傍に作りハ一箇のケルヒムを此方の
末に一箇のケルヒムを彼方の末に置り即ち贖罪所の兩傍にケル
ヒムを作りケルヒムは翼を高く展べ其翼をもて贖罪所を掩
ひ其面をたがひに相向く即ちケルヒムの面は贖罪所に向ふ又
合歡木をもて案を作り其長は二キエビト其寛は一キエビト其高
は一キエビト半、而して純金を之に着せ其周圍を金の絲をつけ
又其四圍を掌寬の邊を作り其邊の周圍を金の小紐を作り而て
之を爲す金の環四箇を鑄其足の四隅に其環を付たり即ち環は
邊の側面にて案を昇く柱に入る處あり而て合歡木をもて案を
昇く柱を作りて之を金を着せたり又案の上の器具即ち皿匙杓及
び酒を濯ぐ聲を純金にて作り又純金をもて一箇の燈臺を造り
即ち純金をもて打て其燈臺を作り其燈臺、輪、彎節及び花は其
六の枝の旁より出づ即ち燈臺の三の枝は此旁より出で燈臺

の三の枝は彼旁より出づ。巴旦杏の花の形せる三の莖節よひ花とよもみ此枝あり又巴旦杏の花の形せる三の莖節よひ花とよもみ彼枝あり燈臺より出る六の枝みみ斯のみとし。巴旦杏の花の形せる四の莖の節よひ花とよもみ燈臺あり二箇の枝の下に一箇の節あり又兩箇の枝の下に一箇の節あり又三箇の節と枝とは其連きり皆鋳て打て純金をもて造り又純金をもて七箇の燈臺と燈鉗と剪燈盤を造り又燈臺と燈の器具は純金一タラントをもて作れり。又合歡木をもて香壇を造りり。長一キヒト、ろ比寛一キヒトにして四角あり。その高は二キヒトにしてその角は其より出づ。上りの四傍の角とよも純金を着せその周圍に金の縁を作れり。又その兩面ふ金の縁の下ふ金の環二箇をふきためたり。即ちその兩

旁ふれを作る是す。なはち之を昇ど。ろの缸を貫くと。ろあり。又合歡木をもてるの缸をつくりて之に金を着せたり。又湯物をつくる法に。あたがひて。聖潔膏と香油の清き香とを製り。其寛は五キヒトにして四角。ろの高は三キヒト。而して。ろは四隅に上に其の角を作りてその角を其より出ま。ろの壇に銅を着せたり。又その壇の器に。其の器具するは。ち。壺と火鉢と鉢と肉網を。付くり。みき。壇の中程の邊の下に。置えて。壇の半に。透せしめ。ろの銅の網の四隅。ふ。四箇の環を。鑄て。缸を貫く。處と。ろし。合歡木をもてるの缸をつくりて之に銅を着せ。壇の兩傍の環あり。の缸をつくり。きり。之を。昇べ。り。し。む。ろの。壇は。板をもて。ふれを。空に。つく。き。り。の。大。た。銅をもて。洗盤をつくり。ろの臺をも銅にす。即ち集

會れ幕屋の門にて役事をあそぶるれば婦人等の鏡をもて之を作
 せり又庭を作せり南に於ての庭の南に方に百キユヒトの細布
 の幕を設く十ろの柱に二十ろの座に二十ろの座に二十ろの座に
 柱の鉤および桁は銀なり北の方に百キユヒトの幕を設くろ
 の柱は二十ろの座は二十ろの座に二十ろの座に二十ろの座に
 あり西の方の五十キユヒトの幕を設くろ柱の鉤と桁の銀
 十ろの柱の鉤と桁の銀あり東の東の東の方に五十キユヒ
 トの幕を設く面して一の旁に十五キユヒトの幕を設くろ
 柱に三ろの座も三ろの座も一の旁に十五キユヒトの幕を設くろ
 の柱に三ろの座も三ろの座も一の旁に十五キユヒトの幕を設くろ
 圓の幕のみる細布あり柱の座に銅柱の鉤と桁の銀柱の頭
 の銀あり庭の柱のみる銀は桁に銅柱の鉤と桁の銀柱の頭
 の銀および麻の捻絲をもて織りしたる者なりろの長は二十キユ

ヒト、ろの寛おける高の五キユヒトにして庭の幕と等し
 柱の四ろの座に四ろの座にして其の銅の鉤の銀の頭
 になり幕屋およびろの周圍の庭の釘はみな銅あり幕屋
 る物そあるはち律法の幕屋につける物を量る左のごとし
 ロンれ子イタマルモーセの命あまたをひてレヒ人を率
 むを量るるあり三ノダの支派の子あるウリの子ハザレ
 ル凡てエホバのモーセを命じたまひし事等をなせり
 派のアヒサマクの子アハリアブ彼どもにありて
 し青、紫、紅の絲および麻絲をもて文繡をせり
 作をみそを用たる金は聖所のシケルあまたをひて言ハ都合二十
 九タラント七百三十シケルあり是するはち献納たるど
 あり會衆の中の被徴らさし者の献げし銀と聖所のシケル
 たをひて言ハ百タラント千七百七十五シケルなり凡て

る者の中へ入し者即ち二十歳以上は者六十歳三千五百五十人ありたきバ聖所のレケルふあたひて言ひ一人に一ベカとある是すもち半レケルなり七百タラントの銀をもて聖所の座と幕れ座を鑄たり百タラントをもて百座をけりきを一座すありち一タラントあり又千七百七十五レケルをもて柱の鈎をけり柱の頭を包み又柱を連ねあせたり又獻納たるどころの銅の七十タラント二千四百レケルなり是をもちひて集會レ幕屋の門の座をけり銅の燈とろの銅の網および燈は諸の器具をけり庭の周圍の座と庭は門は座および幕屋の諸の釘と庭の周圍の諸の釘を作さり

青、紫、紅の絲をもて聖所にて職をなすとみろの供職の衣服を製り亦アロンのためお聖衣を製りエホバのモーセに命じたまひしごとくせりニ又金、青、紫、紅は絲および麻は捻糸をも

てエホアを製りニ金を薄片に打展べ剪て織とみしふれを青、紫、紅の絲および麻は捻糸に和てみさを織なし又みさるために肩帯をけりて之を連ねろの兩の端をあいて之を連ねエホアの土ありて之を束ぬるとみろの帯はろの物同しうして其の製のごとし即ち金、青、紫、紅の絲および麻の捻糸をもて製る者ありエホバのモーセに命じたまひしごとくあり又葱珥を琢て金の楯に嵌め印を刻るおとくにイスラエルの子等の名をみさお鐫けしむれをエホアの肩帯の上につけてイスラエルの子孫の記念の玉とあらしむエホバのモーセに命じたまひしごとし又また胸牌を巧み織なしエホアの製のごとくお金、青、紫、紅の絲および麻の捻糸をもてみさを製さり胸牌の四角にして之を二重おけりたれを二重おしてろの長半キユヒトろの潤半キユヒトありろの中お玉四行を嵌む即ち赤玉、黃玉、瑪瑙の一行を第一行とす第二行

は紅玉、青玉、金剛石、第三行の深紅玉、白瑪瑙、紫玉、第四行の黃綠玉、
 玉葱、前碧玉、凡て金の槽の中あみれを嵌たり、さうの玉のイヌラニ
 ルの子等の名あまたおひ其名のごとくあ之を十二あなし、而して
 印を刻むごとくあろの十二の支派の各々の名をふれ、お構つけた
 り、又純金を紐のごとくお組たる錠を胸牌の上あつけたり、又
 金をもて二箇の槽をつくり、二の金の環をつくり、さうの二の環を胸
 牌の兩の端あつつけ、さの金の紐二條を胸牌の端の二箇の環あつ
 けたり、又而してさの二條の紐の兩の端を二箇の槽あつ結ひ、
 の肩帯の上あつけてさの前あまひ、又二箇の金の環をつく
 りて、之を胸牌の兩の端あつけたり、即ちさの ϵ ボアお對ふとふろ
 の内の邊あみれを付く、また金の環二箇を造りて、みれを ϵ ボア
 の兩傍の下の方あつけてさの前の方あてさの聯接る處お對て、
 ボアの帯の上あらしむ、三胸牌の青紅をもてさの環あよりて、之

を ϵ ボアの環あ結つけ、 ϵ ボアの帯の上あらしめ、胸牌をして ϵ
 ϵ ボアを穿るゝみどならしむ、又 ϵ ボアに属する明衣の凡てみ
 れを青く織なせり、三明衣の孔の真中あありて、錠の領盤のこ
 どし、ろの孔の周圍あ縁ありて、統ひきらしむ、而して、明表の裾あ
 青、紫、紅の捻糸をもて、石槽を作りつけ、又純金をもて、鈴をつく
 り、ろの鈴を明衣の裾の石槽の間あつけ、周圍あおいて、石槽の間々
 あみれをつけたり、 ϵ 即ち鈴お石槽鈴お石槽と供職の明衣の裾の
 周圍あつけたり、 ϵ ホバのモ ϵ セに命したまひしごとし、 ϵ 又 ϵ ア
 シ、どろの子等のため、お織布をもて、裏衣を製り、 ϵ 細布をもて、頭帽を
 製り、細布をもて、美しき頭巾をつくり、麻の捻糸をもて、揮をつくり
 ϵ 麻の捻糸および青、紫、紅の糸をもて、帯を織なせり、 ϵ ホバのモ
 シ、 ϵ ホ命じたまひしごとし、 ϵ 又純金をもて、聖冠の前板をつくり
 印を刻むごとくあろの上に、 ϵ ホバに聖といふ文字を書つけ、 ϵ 之

お青紐をつけて之を頭帽の上につけたりエホバのモーセに命
 じたまひし如し○三 斯集會の天幕ある幕屋の諸の工事成ぬイス
 ラエルの子孫エホバの凡てモーセに命じたまひしごとくお爲て
 斯おふるへり人衆幕屋と天幕と諸の器具をモーセの詩に
 携へいたる即ちろの鈎の板の横木の柱の座赤染の柱
 羊の皮の蓋雅の皮の蓋障蔽の幕律法の櫃とろの杠贖罪所案
 どのの諸の器具供前のパン純金の燈臺とろの蓋するへり陳列
 る燈臺とろの諸の器具ならびあるの燈火の油金の壇灌膏香幕
 屋の門の幔子銅の壇ろの銅の網とろの杠よびろの諸の器具
 洗盤とろの臺早庭の幕ろの柱とろの座庭の門の幔子ろの紐とろ
 の釘あらびお幕屋お用ふる諸の器具集會の天幕のために用ふる
 者聖所おて職をなすどふろの供職の衣服即ち祭司の職をなす
 時に用ふる者ある祭司アロンの聖衣よびろの子等の衣服

エホバの凡てモーセに命じたまひしごとくにイスラエルの子孫
 ろの諸の工事をなせりモーセろの一切の工作を見るにエホバ
 の命じたまひしおどくに造りてあり即ち是のごとくお作りてあ
 きバモーセ人衆を祝せり

第四十九章

一 故おエホバモーセお告て言たまひけるは正月の元

日に汝集會の天幕幕屋を建べし而して汝ろの中お律法の櫃
 を置る幕をもてろれ櫃を障蔽し又案を攜へり陳設の物を陳
 設け且燈臺を攜へりてろの燈臺を置ろべし汝また金の香壇
 を律法の櫃の前お置る幔子を幕屋の門に掛け燔祭の壇を集會
 の天幕の幕屋の門の前に置る七洗盤を集會の天幕とろの壇の間
 お置るて之お水をいそ庭の周圍に灌漑をたて庭の門お幔子を
 垂そ而して灌膏をどりて幕屋とろの中一切の物お灌ぎて其
 どのの諸の器具を聖別べし是聖物とあらん汝また燔祭の壇と

ろの一切の器具に膏をうまぎてうの壇を聖別べし壇は至聖物と
 ろの一切の器具に膏をうまぎてうの壇を聖別べし壇は至聖物と
 ろの一切の器具に膏をうまぎてうの壇を聖別べし壇は至聖物と
 ろの子等を集會の幕屋の門につききたりて水をもて彼等を洗ひ
 祭司の職を我にふさまむべし又あれの子等をつれきたりて之
 祭司の職を着せまろの父をなせるごとくふの膏を灌ぎて祭司の
 職を我にふさまむべし彼等の膏うまぎて祭司たるふは代々
 傳らざるべきありま第二の正月ふいたりて月の元日ふ
 まひし如くふ爲たりて幕屋を建てての座を置ろの板をたてろ
 幕屋建ぬま乃ちモーセ幕屋を建てての座を置ろの板をたてろ
 の横木をさしみみろの柱を立て幕屋の上ふ天幕を張り天幕の
 蓋をろの上につとみせりエホバのモーセ命じ給ひし如し手而
 してられ律法をとりて櫃を造りて櫃を櫃ふつけ贖罪所を櫃の上ふ

置ろの櫃を幕屋に懸へいり障蔽の幕を垂て律法の櫃を隠せりエ
 ホバのモーセ命じたまひしごとし彼また集會の幕屋におい
 て幕屋の北の方にての幕の外に案を置ろ供前のパンをろの
 上にエホバの前に陳設たりエホバのモーセ命じたまひし如し
 又集會の幕屋において幕屋の南の方に燈臺をおきて案あむ
 はしめ燈臺をエホバの前ふり上げたりエホバのモーセに命じ
 たまひしごとし又集會の幕屋においての幕の前に金の壇を
 居ろ毛ろの上に馨しき香を焚りエホバのモーセに命じたまひし
 ごとし又幕屋の門に幔子を置れ集會の天幕の幕屋の門に縹
 祭の壇を置ろの上に燔祭と素祭をさよげたりエホバのモーセ
 に命じたまひし如し又集會の天幕の幕屋の間に洗盤をおき
 其の水をいれて洗ふほどの爲にすモーセアロンおよびろの子
 等其につきて手足を洗ふ即ち集會の幕屋に入る時または壇に

近づく時に洗ふことをせりエホバのモーセに命じたまひしごと
 し、また幕屋と壇の周囲の庭に藩籬をたて、庭の門に幔子を垂ね
 是もモーセの工事を竣たり言、斯て雲集會の天幕を蓋てエホバの
 榮光幕屋に充たり且エホバの榮光幕屋に在りて、榮光幕屋に
 是、雲の上の止り且エホバの榮光幕屋に在りて、榮光幕屋に
 の上より昇る時は、イスラエルの子孫途に過り、其途々凡て然
 り、然と雲の昇らざる時に、の昇る日まで、途々進むことをせ
 ざり、即ち雲は幕屋の上、エホバの雲あり、夜、の中、火あ
 り、イスラエルの衆の者、これを見る、の途々すべて、然り

95-91126



新嘉坡
新嘉坡
新嘉坡
新嘉坡
新嘉坡